

熟トヲ以テ子子孫孫其業ヲ承襲シ所謂ル家業家職ヲ成セリ然ルヲ一朝急激ニ本案ヲ施行セハ必ス許多ノ障碍ト困難トヲ生セシメントス本案ノ不利ヲ舉レハ此ノ如シ然リ而シテ翻テ其利ヲ考フルニ只々海軍ヲ補益スル一點ニ止マル故ニ禁止期限ヲ二十三年ト爲シ本年以後五年ノ猶豫ヲ與ヘハ人民ハ充分ナル準備ヲ爲スヲ得テ然ク困苦ヲ感セサラントス且夫レ本官ノ最モ憂慮スルハ本案ノ人民ニ妄想ヲ起サシムルニ在リ妄想トハ何ソヤ即チ政府ハ本案ヲ發布シ以テ隱ニ共同運輸會社三菱會社等ヲ保護スルナル可シトノ妄想ヲ起シ其怨恨ノ政府ニ大不利ヲ爲スニ至ランコト是ナリ却テ說ク三番ハ第一讀會ニ於テ日本形船ヲ有害物ト看做シ比スルニ盜賊博奕ヲ以テセリ故ニ本會ニハ熱心シテ原案維持說ヲ主張スルナラン

ト思惟セシニ何ソ圖ラン付託委員ヲ設クル建議ヲ爲セリ蓋シ大ヒニ悟ル有リテ然ルナラン是レ甚々本官ノ満足スル所ナリ本官素ヨリ本案ノ旨趣ヲ是認スレトモ只其禁止期限ニ憂慮ヲ懷ク無キ能ハス深ク三番ノ建議ノ成立センコトヲ望ム

○九番^{三浦安}

建議ヲ賛成ス本官ハ第一讀會ニ於テ五百石以上ト千石

以上トノ日本形船ノ總數ヲ内閣委員ニ質問セシニ十四十五年ニ係ル總數ノ答辨ヲ得タリ本官ハ此等ノ諸點ヲ對照推究シテ八百石以上ト修改スル意見ヲ確定スル爲メニ更ニ詳細ノ質問ヲ爲サント欲セシニ本日ハ番外二番ノ出席ヲ闕クヲ以テ其答辨ヲ得ル能ハス因テ本案ヲ調査委員ニ付託シ本官モ尙ホ修改ノ意見ヲ攻究セハ庶幾クハ其正鵠ヲ得ルニ至ラン

○五十一番 津田 眞道

本官ハ素ヨリ廢棄說ヲ主持シテ動カサレハ斷シテ三番ノ建議ニ同意スル能ハス此法案ノ精神タル本ト甚タ善シト雖モ退テ熟考スレハ其甚タ本末緩急ノ辨ニ暗キ者ト謂ハサル可ラス凡ソ航海事業ノ繁劇ヲ致スハ即チ殖産事業ノ隆盛ナル後ニ在リトス何様ニ船舶ヲ改良スルモ運搬ス可キ貨物ノ增多セサレハ所謂ル徒爲ノミ現今ノ景況タル船舶ハ空ク各港ニ繫錨シテ荷物ノ來託ヲ待ツノ情狀ヲ見ル況シテ西洋形船ノ多額ナル製造費ヲ要シ其乘組人モ亦甚タ乏キヲ告ルヲヤ因テ先ツ殖産事業ヲ振興スルヲ第一着ト爲シ船舶ヲ改良スルハ之ヲ第二着ニ付シテ可ナリ

○五十四番 村田 保

本官モ廢棄論者ノ一人ナレトモ其理由ハ十四番ト稍ヤ之ヲ異ニスレハ一應陳辨セントス内閣ハ本案ニ關シ未タ詳細

ナル調査ヲ遂サルニ似タリ本官ハ前會ニ於テ二十年一月ヲ以テ禁止期限ノ起初ト爲セハ其以前ヨリ製造ニ着手セル者モ亦之ヲ禁止スル歟ト問ヒシニ内閣委員ハ本案發布以後ニ着手シ二十年一月以後ニ成就スル者ハ本案ノ範圍内ニ在リト答ヘリ果シテ然ラハ本案ノ文面ハ甚タ明瞭ヲ缺ケリ又禁止令ニ罰則ヲ掲ケス其制裁ハ之ヲ何如スル歟ト問ヒシニ恐クハ違犯者ヲ出ス無ラン若シ偶マ之レ有ラハ臨時ノ處分ニ付スト答ヘリ然レトモ刑法第二條ノ明カニ存スル以上ハ決シテ臨時ノ處分ニ付スル能ハサラン又禁止以後ト雖モ修繕ハ之ヲ許ササルヲ得ス若シ之ヲ許ストセハ僅ニ船底ノ一殘板ヲ存スル者ニ修繕ヲ加フルモ亦之ヲ修繕ノ中ニ入ル歟ト問ヒシニ然リト答ヘリ然ラハ則チ新造ト修繕トハ殆ント其區別ヲ立ルニ難

カラシ又内閣ハ現ニ日本形船ヲ製造スル者ノ夥多ナルヲ見テ急遽ニ本案ヲ施行スル歟ト問ヒシニ實際未タ詳細ニ調査セスト答ヘリ苟モ此ノ如キ重大ノ禁止令ヲ發セントスルニ其調査ノ周密ナラサルハ實ニ憂フ可キナリ本官ハ主務省ノ實際ニ係ル調査書ノ一班ヲ觀タルニ日本形船ハ日ヲ逐フテ減少シ西洋形船ハ時ヲ以テ増多スル情況ナルコトヲ知レリ今試ミニ之ヲ陳ヘンニ西洋形船ノ新造ハ十二年ニ五十五艘十三年ニ一百六十六艘十四年ニ一百三十八艘十五年ニ九十九艘十六年ニ四十六艘ニシテ此五年ヲ通計スレハ五百零四艘ヲ増加ス之ニ反シ日本形船ノ減數ハ十三年ニ一百九十三艘十四年ニ一千四百五十四艘十五年ニ三百二十九艘十六年ニ一千一百六十艘ニシテ此四年ヲ通計スレハ三千一百三十六艘ヲ減少ス此

減少ノ原因ハ難破其他ノ事實ニ在ル可シ依テ其難破ノ艘數ヲ舉レハ十四年ニハ難破船四百四十二艘ニシテ之ヲ此年ノ總減數ヨリ扣除スルニ一千零一十二艘ハ他ノ事故ニ因テ減少セリ又十五年ニハ難破船二百八十八艘ニシテ之ヲ此年ノ總減數ヨリ扣除スルニ四十一艘ハ他ノ事故ニ因テ減少ス又十六年ニハ難破船三百一十二艘ニシテ之ヲ此年ノ總減數ヨリ扣除スルニ八百四十八艘ハ他ノ事故ニ因テ減少ス前陳ノ景況ヨリ推考スレハ將來四五年ヲ出テスシテ日本形船ハ盡ク滅絶シテ西洋形船ニ變換スルヤ疑ヒ無シ此ノ如キ傾向ナルニ關セス政府ハ此禁止令ヲ發セントス實ニ無用ノ勞ト謂フ可シ因テ本案ハ之ヲ廢棄ニ付スルニ若カス但若シ十四番ノ動議ノ不幸ニシテ成立セスンハ已ムヲ得ス一步ヲ退キテ延期說ニ同意セ

○二十四番輯取素彦 本官ハ禁止期限ヲ延ヘテ二十三年ト爲サント欲ス
ルモ若シ本案ヲ調査委員ニ付託セハ一層ニ適當ナル修正ヲ得ント
信シ三番ノ建議ヲ賛成ス

○番一安場保和

倩ヲ議場ノ景況ヲ考フルニ内閣委員ノ答辨ノ満足ナ
ラサリシヨリ全部付託調査委員ヲ設クル建議出ル有リ又本官ノ調
査書類ヲ缺キ十四番ノ疑議ヲ明辨スル能ハサリシヨリ十四番ノ廢
棄說ヲ惹起セルカ如シ本官實ニ慚懼ニ堪ヘス向キニ本案ハ單簡ノ
法案ナレトモ其關係スル所ハ甚タ廣汎ニシテ之ヲ大ニスレハ國家
ノ興亡ニ關スルト論セシ議官アリ其國家ヲ憂フル衷心ハ深ク感服
スル所ナリ此ノ如キ重大ノ法案ナルヲ以テ内閣ニ於テモ肯テ詳細

ノ調査ヲ怠リシニ非ス然レトモ内閣ハ大體ヲ以テ主眼ト爲シ海軍
省農商務省ニ於テハ充分ノ調査ヲ盡シ且其乗組人等モ決シテ支障
スル無キヲ知り已ニ其時機ノ到達セルヲ以テ此ニ始メテ五百石以
上ノ日本形船ハ二十年一月ヲ以テ其製造ヲ禁止スルモ早カラスト
ノ定見ヲ立テタルナリ前會ニ於テ五百石以上日本形船ノ製造艘數
ニ係ル五十四番ノ質問ハ内閣ニ於テ未タ少シク分明ナラサリシヲ
以テ之カ答辨ヲ缺タルモ過刻陳述セル西洋形船日本形船ノ増減總
計ノ如キハ内閣已ニ分明ニ調査シタリ却テ說ク本案ハ一日二日ヲ
爭フ要急ノ法案ニ非ス只其時機ノ已ニ熟セルヲ察知シ之ヲ今日ニ
發布セントスルノミ各議官中或ハ禁止期限ヲ延フ可シト云ヒ人民
ヲ誘導スルニハ諭達ヲ以テシテ足ル可シト云フモ畢竟本案ノ効力

ヲ完カラシムルニハ早晚必ス法律ヲ以テ明示セサル可ラス實ニ船主ト船人トハ從來主從タル關係ヲ有シ乘船ハ世襲職業ノ習慣ヲ爲セルヲ以テ之ヲ一朝ニ壞破スルハ或ハ憂フ可キニ似タルモ其大體ヲ變革センニハ此等ノ小故ヲ顧ミルニ違マ有ラス況ヤ實際ノ經驗ニ於テ已ニ大ナル支障ヲ致ササルヲ察知セルヲヤ只タ本官ハ各議官ニシテ或ハ內閣委員ノ答辨ノ詳細ナラサルヨリ內閣ハ漫ニ本案ヲ實施セントストノ感想ヲ發シ廢棄說ニ左袒スルニ至ランヲ憂懼スルナリ願クハ各議官ノ此疑慮ヲ棄テ調査委員ヲ設ケテ充分ニ審議ヲ盡サンコトヲ

○議長 發議既ニ盡キタルヲ以テ三番ノ特別建議ノ決ヲ取ラン即チ全部付託調査委員ヲ置クニ同意スル者ハ起立セヨ

起立者十八人

○議長 正半數ナルヲ以テ例ニ遵ヒ本席之ヲ決セン即チ全部付託調査委員ヲ置キ三番箕作六番津田十八番柴原二十四番楫取五十五番久我ノ五名ヲ以テ之ニ充ツ其報告ヲ待チ續會ヲ開カン散會セヨ

午後零時十三分開場

元老院會議筆記 明治十八年六月八日
○第四百七十一號議案 日本形給五百石以第二讀會 五月十八日續會
議長 東久世 通禧
出席議官
二番 小畑 美稻
三番 箕作 麟祥
五番 青山 貞
六番 津田 出
八番 西 周
九番 三浦 安
十番 福原 實

元老院會議筆記 明治十八年六月八日

○第四百七十一號議案 日本形給五百石以第二讀會 五月十八日續會

議長 東久世 通禧

出席議官

- 二番 小畑 美稻
- 三番 箕作 麟祥
- 五番 青山 貞
- 六番 津田 出
- 八番 西 周
- 九番 三浦 安
- 十番 福原 實

十一番	長松 幹
十三番	西村 貞陽
十四番	大鳥 圭介
十五番	長岡 護美
十六番	伊丹 重賢
十七番	林 友幸
十八番	柴原 和
十九番	籠手田 安定
二十番	海江田 信義
二十三番	鍋島 直彬
二十四番	楫取 素彦

二十五番	何 禮之
二十七番	壬生 基修
二十八番	神山 郡廉
三十番	安藤 則命
三十一番	上杉 茂憲
三十二番	官本 小一
三十三番	橋口 兼三
三十四番	楠本 正隆
三十五番	細川潤次郎
三十六番	楨村 正直
三十七番	神田 孝平

- 三十八番 岩村 定高
- 三十九番 大久保一翁
- 四十番 渡邊 清
- 四十一番 町田 久成
- 四十三番 伊集院兼寛
- 四十五番 河田 景與
- 四十六番 田邊 太一
- 五十一番 津田 眞道
- 五十二番 野村 素介
- 五十四番 村田 保
- 五十五番 久我 通久

五十七番 永山 盛輝

内閣委員 番外一番 參事院議官 安場 保和

同 番外二番 參事院議官補 郷田 兼徳

午前第九時三十五分開場

○議長 第四百七十一號議案第二讀會ノ續會ヲ開ク

○六番 津田出 本官ハ本案調査委員ノ一人ナリ聊カ修正ノ理由ヲ陳セ

ン本案ニ關シテハ第一讀會ニモ紛議ヲ生シ調査委員會ニモ種種ノ議論ヲ生セシモ到底枝葉ノ點ヲ除ケハ之カ存廢ヲ論スルニ過キス而シテ本官等ハ之ヲ存スルヲ是認シ隨テ修正ヲ加ヘリ蓋シ禁止年期ヲ延ヘテ二十五年若クハ二十七年ト爲サン乎長キニ失シ二十一年ト爲サン乎短キニ失ス故ヲ以テ本官等ハ其中庸ヲ擇ヒシノミ修

正ノ大意此ノ如シ各位之ヲ領セヨ

○議長 例ニ沿ヒ原案修正案其孰レヲ議題ト爲スヤヲ決セン修正案ヲ可トスル者ハ起立セヨ

起立者二十三人

○議長 多數ナルヲ以テ修正案ヲ議題ト爲ス

書記官 西山 眞平 朗讀

布告案

日本形五百石以上ノ船舶ハ明治二十年^三一月ヨリ其製造ヲ禁止ス

右奉 勅旨布告候事

○十六番 伊丹 重賢 前會ニ於テ賛成說廢棄說延期說等ノ紛出シ本官ハ一

時其取舍ニ惑ヒシモ十八番ノ豫陳セシ延期說殊ニ穩當ナルヲ以テ

斷然賛成センコトヲ約シ而シテ其說ハ二十五年ト爲スニ在リト覺

ヘシモ今ニシテ之ヲ考フレハ少シク長キニ失ス本案ノ二十三年ト爲セルハ眞ニ過ナク不及ナキ好修正ナリ因テ更ニ本案ヲ賛成ス

○十四番 大鳥 圭介 本官ハ第一讀會以來本案ノ關係書類等ヲ稽查シ以テ

熟考ヲ加ヘシモ仍ホ前說ヲ變スル能ハス夫レ本案ハ原案ニ比スレハ船主ノ困苦貨物運輸ノ不便ハ稍ヤ減少シ頗ル本官ノ希望スル點

ニ近キモ思フニ本修正ハ廢棄說ト二十五年ト言ヘル延期說トヲ中裁セルニ過キス五百石以上日本形船ノ製造ヲ禁止スルハ本官モ素

ヨリ企望スル所ナレトモ此事タル自然ノ進化ニ委スルモ敢テ行ハレサルニ非ス假令布告ヲ要スト爲スモ目下窮民救濟ノ方策ヲ施ス

時會ナレハ之ヲ今日ニ發スルハ甚タ不可ナリ試ミニ本年四月中ニ

品川灣ニ漕入セル船舶及ヒ雜貨ノ計數ヲ某新聞紙ニ掲載スルヲ觀ルニ汽船二十五艘風帆船三十六艘日本形船五百石以上一千四百二十三艘ニシテ米八萬七千零一十六俵穀類一萬三千二百四十六俵酒醬油四萬七千九百六十三樽鹽味噌四萬六千七百九十七個薪炭四百一十一萬九千三百四十七個石炭六百六十三萬七千四百六十噸陶器六千八百六十五捆ナリ但シ當時五百石以上日本形船ノ全國ノ總數一千三百六十九艘ナレハ一千四百二十三艘ノ入港ヲ見ルハ頗ル恠ム可キモ是レ幾回モ往來ヲ爲セルニ由ルナラン原來酒醬油ノ如キハ姑ク置キ薪炭石炭等ノ運輸ヲ西洋形船ニ託スレハ啻ニ出入相償ハサルノミナラス明治二十三年以後能ク此多數ノ日本形船ニ換ル西洋形船ヲ得ル乎若シ日本形船ノ製造ヲ禁止シ而シテ之ニ換ル西

洋形船ヲ得スンハ如何シテ貨物ヲ運輸センヤ本案ニ從フモ果シテ貨物ノ運輸ヲ妨ケス又果シテ天下ノ經濟ヲ害セサル耶調査委員モ恐クハ之ヲ保スル能ハサラン且若シ二十五年若クハ三十年ト修正セハ稍ヤ可ナル如キモ猶ホ未タ臆測タルヲ免レス本官嘗テ某ノ府縣ハ某某ノ貨物幾許ヲ輸出スト云フ如キ精密ノ調査書類ヲ存スルヤ否ヤヲ内閣委員ニ質問セシニ之レ無シト答ヘリ其レ然ラン實ニ其調査ハ素ト容易ノ業ニ非サレハナリ要スルニ斯ル布告ハ十分ニ稽查セシ後ニ非サレハ得テ發ス可ラス殊ニ今日ハ全國到所不融通不景氣ヲ唱フルナレハ尤モ此ニ注意セサルヲ得ス縱令本案ヲ發セサルモ便利ニ趨ルハ人情ノ常ナレハ人力車ヨリ馬車ニ移リ又進ミテ汽車ヲ用フルニ至レル如ク自然ニ日本形船ヲ廢シテ西洋形船ヲ

用フルニ至ル可シ畢竟今日布告ヲ發シ強テ西洋形船ニ換ントスルハ徒ラニ外面ヲ裝飾スルノミ看ヨ我カ工商業ノ如キ之ヲ外國ニ比スレハ頗ル幼稚ニ屬ス然ルヲ獨リ船舶ノミ彼ニ模倣スルモ將タ何ノ益カ之レ有ラン啻ニ其益ヲ見ル無キノミナラス今日ニシテ本案ヲ發セハ或ハ恐ル却テ我カ人民ノ進歩ヲ遲緩ニ陷ラシメンコトヲ故ヲ以テ一旦之ヲ内閣ニ繳還シ而シテ時機ノ到來スルヲ俟チテ徐ロニ之ヲ發セハ各地ノ運輸ヲ妨ケス隨テ天下ノ經濟ヲ害セサル可シ既ニ本案ヲ議題ト爲スニ決セル以上ハ此動議ヲ發スルモ恐クハ行ハレサル可シ然レトモ憂慮措ク能ハサルヲ以テ敢テ廢案說ヲ提出ス幸ニ賛成者ヲ得テ問題ト爲ルヲ切望ス

退席

六番

津田

出

○三十一番 上杉茂憲 賛成

○五十一番 津田眞道 現動議ヲ賛成ス本案ヲ原案ニ比スレハ稍ヤ可ナリ

若シ之ヲ廢棄セハ政府ハ原案ヲ把テ之ヲ布告シ而ル後チ本院ノ檢視ニ付スルナラン是ニ由テ之ヲ觀レハ明治二十三年ト修正セルハ可ナルカ如シ然レトモ本官ハ仍ホ前說ヲ變スル能ハス抑モ禁止令ハ苟モ社會ノ有害物ニ對スルニ非サレハ決シテ之ヲ發ス可ラス又既ニ之ヲ發スルヤ若シ悖犯スル者アレハ必ス其罪ヲ問ハサル可ラス然ルニ本案ニハ罰例ヲ載セス是レ其苛酷ニ出ルニ由ルナラン十四番ノ陳辨ヲ聽クニ本年四月中品川灣ニ漕入セル五百石以上ノ日本形船ハ一千四百二十三艘ニシテ西洋形船ハ三十六艘ナリト入港船舶ノ比例此ノ如クナルニ本案ヲ以テ二十三年以後五百石以上日

本形船ノ製造ヲ禁止セントスルハ急劇モ亦甚シト謂フ可シ請フ看
 ヨ本邦ノ人力車夫ハ其數幾十萬人ニ上レルヲ歐米人ノ心情ヲ以テ
 之ヲ考フレハ是レ人ニシテ牛馬ノ業作ヲ爲ス者ナリ故ニ是等ハ斷
 然ニ禁止セサル可ラスト雖モ即今直チニ然スル能ハス是レ彼此民
 富ノ程度相同シカラサレハナリ夫レ人力車ハ素ヨリ馬車ニ如カス
 馬車ハ素ヨリ汽車ニ如カサレトモ一朝ニシテ馬車人力車ヲ禁止シ
 以テ直チニ全國ニ鐵軌ヲ布設スル能ハス之ト同シク日本形船ハ素
 ヨリ西洋形船ニ如カサレトモ今日遽カニ此禁止令ヲ發スルハ猶ホ
 馬車人力車ヲ禁止シ以テ鐵軌ノ布設ヲ望ムカコトシ是レ宜ク自然
 ノ進化ニ委スヘキノミ因テ廢案論ノ行ハレンコトヲ望ム

○議長 十四番ノ動議ハ賛成者アリ問題ト爲ス

○四十番 渡邊清 十四番ニ左袒ス本案ヲ以テ明治二十三年以後五百石
 以上日本形船ノ製造ヲ禁止スルヤ若シ之ニ違犯セハ恐クハ刑法第
 四十三條第四十四條ニ照シテ其物件ヲ沒收スルナラン然リ而シテ
 此船舶ヲ禁制品ト爲スモ果シテ遺憾ナキヤ否ヤ二十三年以前ニ製
 造セル者ハ禁制品ニ非スト爲シテ其運用ヲ許シ此以後ニ製造スル
 者ハ禁制品ト爲シテ沒收スル如キ實ハ遺憾ナキ能ハス是レ本官等
 ノ第一讀會ニ異議ヲ唱ヘタル所以ナリ夫レ此不適當ナル禁止令ヲ
 布カス之ヲ自然ノ進化ニ任放スルモ日本形船ト西洋形船トヲ比ス
 レハ航漕ノ便否難破ノ多少等其差異自ラ判明ナル以上ハ漸次ニ日
 本形船ノ減少シテ西洋形船ノ增多スルヤ疑ヒ無シ近來日本形船ノ
 稍ヤ減少セルヲ以テ之ヲ證明スルニ足ル何ヲ苦ミテ人民ニ惡感觸

ヲ與フル此禁止令ヲ發スルヲ須ヒン且ヤ十四番モ陳述セル如ク本案ハ天下ノ經濟ニ影響ヲ及ホス者ナルヲ以テ廢棄ニ付スルヲ得タリトス

○十八番柴原和

本官ハ本案調査委員ノ一人ナリ修正ノ理由ハ六番ヨリ陳辨シタレトモ廢案論者ノ此修正ヲ指シテ中裁論ト言フニ至テハ聊カ辨白セサルヲ得ス之ヲ要スルニ論者ノ持説ハ結局日本形船ヲ西洋形船ニ換ルヲ非視セス惟タ本案ノ或ハ民力ノ度ニ適セサルヲ恐ルルニ在リテ畢竟是レ臆測論ノミ本官等ハ政府ノ目的ヲ人民ニ豫示スルヲ是認シ而シテ明治二十三年ヲ以テ適當ノ時機ト考量ス蓋シ此修正ノ如クスレハ造船ノ準備モ整頓シ日本形船ノ船人モ漸次ニ西洋形船ノ乗組人ニ轉業シ禁止期限ニ至ルモ其應用ニ乏シ

カラサルヲ得シ二十三年ハ今ヨリ五年ノ後ナリ地租改正ノ如キモ當初ハ毎五年ト定メリ長短其宜キヲ得タリト謂フ可シ論者ハ本案ヲ發セハ他日運輸ニ障礙ヲ生ス可シト云フモ五年ノ猶豫ヲ與フルナレハ今日五百石以上ノ日本形船ノミヲ使用スル商人モ豫メ目的ヲ立ルヲ得ントス是レ此修正ヲ加ヘタル所以ニシテ之ヲ中裁論ト言フハ甚タ感服セサルナリ某議官ハ若シ廢案ニ付セハ内閣ハ斷然ニ原案ヲ布告シ而ル後チ之ヲ本院ノ檢視ニ付ス可キヲ以テ斯ク修正ヲ加ヘシナラント云フモ此修正タル決シテ政府ノ鼻息ヲ窺フニ非ス此言ノ如キハ本官等ノ聞クヲ厭フ所ナリ又某議官ハ刑法第四十三條第四十四條ヲ援テ本案ヲ駁セリ説ノ如ク本案ニ悖犯シテ明治二十三年以後ニ五百石以上ノ日本形船ヲ製造セハ之ヲ沒收ス可

キモ造船ノ工事ハ一朝一夕ニ成ル者ニ非サレハ斯ル顧慮ハ實際ニ
要用ナラス是レ本官等ノ獨リ其然ルヲ信スルノミナラス内閣委員
モ亦嘗テ陳述セル所ナリ論者ハ既ニ日本形船ヲ西洋形船ニ換ルヲ
是認シ而シテ本案ヲ發スルヲ非視スルハ抑モ何ソヤ施行年限ノ遲
速ヲ論スルハ別題ニ屬ス苟モ本案ノ旨趣ヲ是認スル以上ハ宜ク其
旨趣ノ貫徹センコトヲ望ムヘシ又某議官ハ前日本官ハ原案ヲ二十
五年ト修正セント豫陳スト云フ實ニ前日ハ然ク豫陳セシモ是レ咄
嗟ノ考案ニシテ必シモ二十五年ヲ可トスルニ非サルハ當時既ニ明
言セル所ナリ原來陸海軍ヲ擴張スル旨趣ヲ貫徹センニハ日本形船
ヲ西洋形船ニ換ルヲ一大緊要ノ事件ト爲ス船舶及ヒ船人ノ準備セ
ルモ外洋ノ航行ニ堪ヘサル如クシハ眞ニ憂慮ス可キナリ故ニ本案

ノ行ハレンコトヲ切望ス

○三番箕作麟祥

原來日本形船ハ船体脆弱ニシテ頗ル危険ナレハ其製造
ヲ禁止スルハ政府ノ職分ナルノミ若シ之ヲ自然ノ消長ニ委セン歟
其増減ハ豫知ス可ラス故ニ本官ハ前會ニハ原案ニ據テ施行スルモ
可ナリト思量セシモ討議ヲ經テ調査委員ヲ置クニ決シ本官等誤テ
其任ヲ受タリ因テ疑義ヲ内閣委員ニ質問シ尙ホ熟考セルニ原案ノ
期限ヲ以テシテハ航海者ニ乏シク且ツ北海ニハ造船場ノ周給セサ
ラントス故ニ更ニ三年ヲ延ヘリ蓋シ是等ノ準備ノ全ク成ランコト
ヲ期スルナリ說ノ如ク三年ヲ延ルモ未タ必シモ他日運輸上ニ支障
ヲ致ス無キヲ保セスト雖モ本官等ハ其憂慮ヲ要セサルヲ信ス又或
ル論者ハ馬車人力車等ノ譬喩ヲ援テ本案ヲ駁セリ然レトモ原來人

力車ヲ馬車ニ換ヘ馬車ヲ汽車ニ換ルハ却テ安全ヲ去テ危険ニ就ク者ニシテ此ノ如キハ止タ體裁ヲ論スルノミ之ニ反シテ本案ハ日本形船ノ危険ヲ去テ西洋形船ノ安全ニ就ントスルニ存ス人力車云云ノ引例ハ甚タ當ラス又今日民力窘困ナルヲ以テ本案ヲ發スルハ得策ニ非スト云フモ今日之ヲ發シテ直チニ日本形船ノ製造及ヒ使用ヲ禁止スルニ非ス到底必ス一タヒハ發ス可キ法令ナレハ今日之ヲ發シテ豫メ將來ノ目的ヲ立テシムルヲ可トス且夫レ今日之ヲ發スルモ啻ニ障碍ヲ見サルノミナラス却テ甚タ要用ナルヲ信ス又此布告ヲ發セハ東京府下ノ如キ他日薪炭等ノ缺乏ヲ告ケ其價直ヲ貴ウセント云フモ西洋形船ハ航海ノ度數頻繁ナルヲ以テ決シテ斯ル慮ヲ須ヒス又府下ノ某新聞紙ニ本年四月中東京灣ニ漕入セル五百

石以上日本形船ノ數ヲ一千四百二十餘艘ト記セリト云フモ十六年十二月ノ主務省ノ調査ニ據レハ全國内五百石以上日本形船ハ一千一百二十一艘ナレハ新聞紙ノ載スル所ハ恐クハ誤レルナル可シ蓋シ人心ノ異ナル各其面ノ如クナレトモ本官等ハ二十三年ト修正セル以上ハ萬モ障碍ヲ致ササルヲ信スルナリ

○十三番 西村 貞陽

本官ハ第一讀會以來病ニ因テ參場セサリシ故ニ未タ各位ノ說ヲ詳カニセサレトモ原案恢復說ヲ蓄フルヲ以テ聊カ之ヲ陳セン抑モ日本形船ト西洋形船トノ難破ノ艘數ヲ較計スレハ其間ニ著シキ差違ヲ見サル如キモ先ツ其航海ノ回數ヲ算スルニ大約日本形船二回ト西洋形船十回トノ比例ナレハ難破船數ヲ數フルニハ日本形船一千艘ト西洋形船二百艘トヲ對當セシメサル可ラス然レ

ハ則チ彼此ノ間ニ著キ差違ノ存スルヲ知ル可シ又若シ經濟ノ點ヨリ之ヲ觀ルモ西洋形船ノ運轉ハ駿速ニシテ日本形船ノ運轉ハ遲鈍ナレハ日本形船ノ迅ク減少ニ赴クヲ望マサル可ラス論者ハ日本形船ノ製造ヲ禁止セハ他日運輸ニ障礙ヲ見ル可シト云フモ今ヤ我國ノ船舶ノ供給ハ需用ヨリモ多キヲ以テ三菱會社等モ之ニ困メリ蓋シ是レ明治十三年乃至十四年ノ商業活潑ナルニ際シ運輸事業ノ一時頻繁ナリシ時俄カニ船舶ヲ増加シタル結果ニシテ即チ目今ハ石炭ノ如キスラ殆ント其一半ハ汽船ヲ以テ之ヲ運輸シ鹽薪炭及ヒ胴緋マテ西洋形船ヲ以テ運輸スルニ至レリ況シテ汽船ヲ以テ運輸スルニ足ル貨物ナラハ他ノ船舶ヲ假ラス汽船ヲ以テ運輸スルハ却テ今日ノ經濟ニ利益スルヲヤ又某新聞紙ニ載タル品川灣漕入船舶ノ

艘數ハ三番ノ陳ル如ク頗ル疑ハシ或ハ五十石以上日本形船ノ誤刷ニ出ルニ非サル耶又或議官ハ本案ヲ指シテ外面ヲ裝飾スルニ過キサル者ノ如ク論スレトモ日本形船ヲ西洋形船ニ換ルハ結髮ヲ斷髮ニ和服ヲ洋服ニ換ルト全ク其趣ヲ異ニシ彼ハ眞ニ外面ヲ裝飾スルニ在レトモ此ハ有害物ヲ舍テ有益物ヲ取ルニ存ス故ニ本官ハ迅ク之ヲ施行センコトヲ望ム但其乘組人竝ニ造船所ニ關シ顧慮スル議官アルモ苟モ船卸ヲ爲スヲ得ル處所ニ在テハ西洋形船ヲ製造スルニ難カラス見ニ東京ニ於テモ金杉靈岸島若クハ品川砲臺ニ其製造ヲ爲セル有リ其他造船所ニ非サルモ國內ニ船舶ヲ製造スル處所蓋シ少ナカラサラン又其乘組人ノ如キモ一百噸未滿ノ西洋形船ナレハ惟タ乙種免狀二等運轉手一名ヲ要シ一百噸以上三百噸未滿ナレ

ハ乙種免狀船長一名乙種免狀一等運轉手一名ヲ要スルノミ今日見存セル五百石以上日本形船ハ僅僅一千四百二十餘艘ナレハ二十年以後漸次ニ朽敗シ若クハ破壊スルモ西洋形船ヲ以テ充分ニ之ニ換ルヲ得ン聞クカ如クンハ日本形船ノ船長モ其改良ヲ要スルヲ以テ當該官衙將サニ適當ナル試験法ヲ設ントスト其試験ニハ多少難易ノ別ヲ存スルモ今ヤ日本形船ノ船長スヲ試験ヲ施サント要スルナレハ二十年ヨリ本案ヲ施行スルモ決シテ早キニ失セサルヤ知ル可シ北海道ハ明治八年ニ五百石以上日本形船製造禁止ノ令ヲ布ケリ此事タル當時ニ在テハ或ハ壓抑ニ過キタルト西洋形船ノ製造費ハ日本形船ヨリモ巨額ヲ要スルトノ爲メニ造船費ノ幾分ト造船所トヲ貸與センコトヲ令セリ然リ而モ當時北海道ニ造船所ノ設ケ無キ

ヲ以テ又更ニ令ヲ發シテ造船費ノ一割ヲ上納セハ他ハ官府ニテ代辨シ船舶ハ東京ニ於テ製造シ以テ之ヲ請求者ニ交付シ二年賦ト爲シテ貸費ヲ還納セシムルコトヲ告ケシニ一人ノ貸費ヲ請求スル無クシテ續續西洋形船ヲ製造シ近來ハ函館ニモ私設ノ造船所ヲ見ルニ至レリ其初メ函館ニ於テ製造シタル船舶ハ多クハ「スクー子ル」形ナリシモ漸ク西洋形ノ大船ノ便益ナルヲ知リテ近時意外ニ大船ノ數ヲ増セリ蓋シ日本形船ヲ西洋形船ニ換ルハ獨リ北海道ニノミ之ヲ行フニ止メス廣ク全國ニ行フハ本官ノ夙トニ希望スル所ニシテ今日本案ヲ發スルハ時機既ニ熟セリトス因テ本官ハ現問題ノ消滅ヲ待テ原案回復說ヲ提出セント欲スルナリ

○二十四番楫取素彦

本官モ調査委員ノ一人ナリ修正ノ理由ハ六番等ノ

既ニ陳辨セルヲ以テ復タ贅言ヲ要セサレトモ本修正ヲ指シテ中裁ヲ爲ス者ト云フニ至テハ本官モ一辨セサルヲ得ス抑モ本修正ハ船人ノ員數ト運輸貨物ノ量額トニ著眼シタル者ニシテ決シテ中裁ノ旨趣ニ出ルニ非ス稍ヤ寛和ヲ得セシメタルノミ某議官ハ金融閉塞ノ今日ニ在テ本案ヲ發スルハ得策ニ非スト難スレトモ是レ實ニ姑息論ナリ金融閉塞ハ内國ニ於テノミ交換賣買スルニ是レ由ル若シ外國ニ渡航シテ盛ンニ貿易ヲ爲ス如クンハ能ク其流通ヲ挽回スルヲ得ントス然リ而シテ日本形船ヲ以テシテハ外國ニ渡航スル能ハス遠州洋玄海洋ノ如キモ順風ニ賴テ僅ニ渡航スルヲ得ルニ過キス西洋形船ハ然ラス逆風ニモ大洋ヲ渡航スルヲ得可シ故ニ日本形船ヲ西洋形船ニ換ルハ即チ是レ日本ノ經濟ヲ裨補スル者ト謂フモ過

當ナラサルナリ

○三十五番

細川潤次郎

本官ハ過刻本案ヲ議題ト爲スノ取決ニハ起立ヲ表セス是レ十三番ト同感ナルニ由ル然レトモ當時既ニ本案ヲ議題ト爲スニ決セル以上ハ原案回復説ハ恐クハ行ハレサル可シ本官等ハ本案スラ既ニ是認セサルナレハ現問題ハ素ヨリ是認スル能ハス然リト雖モ現問題モ敢テ原案ノ精神ヲ非視セスト云ハハ本官等ハ惟タ之ヲ看テ目的ヲ同ウスルモ方法ヲ異ニスル者ト做サンノミ本官初メ謂ラク原案ニ對シテハ大ナル異論ヲ見サル可シト然ルニ第一讀會以來頻頻ニ議論ヲ起生セル有リ因テ試ニ本官ノ意見ヲ陳辨セン抑モ原案ハ裏面ヨリ之ヲ言ヘハ猶ホ西洋形船ヲ用ウ可シト令スルカコトク而シテ西洋形船ト云ヘハ何人モ日本國ノ固有物ニ非

ストノ感覺ヲ生ス可キモ我カ昔時ノ船舶ハ今ノ日本形船ト異ニシテ却テ西洋形船ニ類スルカ如シ聞ク三本櫓ノ大船ヲ製造スルヲ禁止セシハ徳川氏ニ始マレリト一説ニハ豊太閤ノ世ニ始マレリト云フ二説孰レカ信ナルヲ知ラサレトモ斯ル禁令ハ要スルニ外國ト交通ヲ絶セントスル目的ニ職由スルナラン往古神功皇后ノ三韓ヲ征伐シ又數次遣唐使ヲ發差シタル事蹟ニ據テ之ヲ考フルモ古圖ニ徴シテ之ヲ觀ルモ當時ノ船舶ハ今ノ日本形船ト異ニシテ却テ西洋形船ニ類セルヲ知ル果シテ今日ノ船舶ノ如キ脆弱ナル構造ノ者ニ係リシナラハ安ソ能ク萬里ノ波濤ヲ凌キテ外國ニ航行スルヲ得ン且ヤ今日ノ日本形船ハ例ヘハ千石積ト云フモ之ヲ陸上ニ置キテ千石ノ貨物ヲ搭載スレハ必ス破壊ス惟タ水中ニ在テノミ水ノ壓力ニ憑

テ之ヲ支ヘ以テ破壊セシメスト云フ斯ル船舶ヲ以テシテハ密ニ外國ニ航行スル能ハサルノミナラス遠州洋玄界洋竝ニ北陸海スラ猶ホ危難ナリトス其レ然リ近時西洋形船ノ漸ク増加セシハ實利上眞ニ然ラサルヲ得サルニ由ルノミ宜ヘナリ先輩ノ夙トニ西洋形船ヲ以テ軍備ニ必要ナル者ナリト論シタルハ西洋形船ノ利益ノ此ノ如キヲ洞見セシナリ然レハ則チ宜クカメテ之カ製造ヲ誘導スヘク而シテ原案ハ善ク此旨趣ニ適フ者ナリ論者或ハ之ヲ指シテ日本ノ舊貫ニ大變動ヲ及ホス者ナリト爲スモ此駁撃ハ嚮者西洋形船ヲ輸入シ軍艦ニ至ルマテ我カ舊貫ヲ改ムル時ニ在テ之ヲ發ス可クシテ貨物ノ運輸ニ至ルマテ十中ノ八九ハ汽船ヲ用ル今日ニ之ヲ發ス可キニ非ス造船所ノ設置ニ關シテハ同論者ナル十三番ノ既ニ之ヲ辨明

シ其說亦一理アリト雖モ本官ハ他別ニ一說ヲ有ス即チ本官ノ意見ヲ以テスレハ苟モ造船所ト云ヘハ船舶ノ製造及ヒ修繕ニ關スル機械工人モ具備セサル可ラス本官嘗テ長崎及ヒ横須賀ノ造船所ヲ觀タルニ二所共ニ我國ニ應用スル船舶ヲ製造シ及ヒ修繕スルニ足レルカ如シ否ナ實ハ之ヲ以テ本邦ノ財力ノ度ニ過キタリト爲スモ敢テ過言ニ非サラン原來東洋中ニ一大造船所ヲ置ケハ平時ハ此ノミヲ以テシテ足レリ但タ一朝外國ト干戈ヲ動スニ至レハ船舶ノ製造若クハ修繕ヲ他國ニ囑託スル能ハサルヲ以テ國小ト雖モ亦一ノ造船所ヲ設ケサル可ラス費用ノ點ヨリ之ヲ考フルモ横須賀造船所ノ如キ完備セル者數所ヲ設ケントスルハ到底企望ス可ラス要スルニ造船所ノ乏少ヲ說ケル各官ノ駁撃ハ惟タ是レ理論ニ止マルノミ今

ヤ實際ヲ顧ルニ本官ノ郷里ナル高知縣ノ如キ近來貨物運輸ハ大概汽船ヲ用ウト云フ是レ其航漕ノ安全ナルト到達ノ迅速ナルトニ由ルナル可シ然リ而シテ汽船ニ託スレハ運賃昂貴ニシテ損益相償ハサル貨物即チ薪炭等ハ卒子遠隔地方ニ運輸スル無シ故ヲ以テ是等ノ粗物ハ五百石以下ノ日本形船ヲ用ヒテ運輸スレハ足ル其稀ニ足ラサルニ會シ始メテ西洋形船ニ囑託ス可キノミ且ヤ前日ハ自己ノ貨物ヲ自己ノ船舶ニ積載シテ之ヲ需用地方ニ運搬シタルモ今日ハ許多ノ資本ヲ以テ成立シ而モ專ラ海運ノミニ從事スル共同運輸會社及ヒ三菱會社ノ如キ有リ是レ分業ノ理ニ原ケル者ニシテ元來一人ニシテ貨物ト船舶トヲ併有シ以テ兼業ヲ營ムハ二人ニシテ貨物ト船舶トヲ分有シ以テ專業ヲ營ムニ如カス加之前兩會社ハ數多ノ

汽船ト風帆船トヲ備フレハ運輸ノ供給ニ缺乏ヲ告ルコトハ蓋シ之レ無シ若シ或ハ之レ有シニハ其障礙ヲ被フル地方ノ有力者相謀テ海運ノ事業ヲ起ス可キノミ日本形船ト西洋形船トノ安危得失ヲ較論スレハ實ニ前陳ノ如シ今日原案ヲ施行スルモ決シテ障礙ヲ生セサルナリ又本案モ敢テ障礙ヲ見サル可キモ苟モ國家ニ便益スト認ムル以上ハ宜ク速カニ之ヲ實施スヘシ因テ本官ハ十三番ノ豫陳セル原案回復説ノ出ルヲ待テ之ヲ贊成セント欲スルナリ

退席

三十六番

榎村

正直

○九番^{三浦安} 本官ハ初ヨリ本案ヲ視テ海軍ヲ擴張スル精神ニ出ル者ト爲シ以テ之ヲ是認セシナリ然レトモ前會ニ於テ内閣委員ハ原案ノ斯ル旨趣ニ出サルコトヲ陳辨セリ故ニ本官ノミ獨リ斯ル旨趣ニ

出タリトハ斷言スルヲ得サレトモ依然原案ヲ是認ス然リ而シテ過刻本官ノ修正案ヲ議題ト爲スニ起立セシハ廢案説ヲ防ク爲メニシテ實ニ修正案ニ左袒セルニ非ス即チ修正委員席ニ在テモ已ムヲ得スンハ明治二十一年ト修正ス可シト云ヒシナリ要スルニ一年ナリトモ早ク其施行センコトヲ欲ス但シ原案ト雖モ二十年ヨリ日本形船ノ運轉ヲ禁止スルニ非ス惟タ其製造ヲ禁止スルノミ爾後五年乃至十年ヲ經ハ五百石以上ノ日本形船ハ漸ク減少シテ概子西洋形船ニ變換ス可ク斯ル時會ニ迫ヘハ今日ノ如キ民力ノ疲弊ヲ見サル可シ廢案論者ノ今日此禁令ヲ發ス可キ時機ニ非スト云フハ二十年以後ハ日本形船ノ運轉ヲモ禁止スル者ト思惟セルニ似タリ抑モ人命ノ危険ハ言フヲ待ス貨物ヲ保護スルニハ務テ速ニ此禁令ヲ實施セ

サル可ラス三年ヲ延セハ三年ノ損害ヲ受クルナリ既ニ本案ヲ議題ト爲スニ同意セル者ノ多キヲ觀レハ廢案說ハ到底行ハレサル可シ因テ幸ニ原案恢復說ノ出ルヲ待テ之ヲ贊成シ尙ホ意見ヲ陳辨セント欲スルナリ

○十四番 大島圭介

廢案說ニ對シテ頻ニ異論ヲ生シ原案回復說ノ豫陳ヲモ聞クニ至レリ其意見ノ異ナルハ實ニ已ムヲ得サルノミ但シ本官ト雖モ本案ノ旨趣ヲ非視セス只タ未タ之ヲ發スル時機ニ會セスト爲スノミ九番ハ本官ヲ以テ本案ヲ誤解セル者ノ如ク論セリ本官ノ不肖ナルモ本案ノ旨趣ハ五百石以上日本形船ノ使用ヲ禁止スルニ在ラス實ニ新タニ製造スルヲ禁止スルニ在ルコトヲ領會セリ然リ而モ此禁令ハ未タ以テ障礙ヲ生スル無シト謂フ可ラス何トナレハ

五百石以上ノ日本形船ハ悉皆近來ノ製造ニ係レハ可ナルモ其製造後既ニ十五六年ヲ經タル者ナラハ明治二十年ノ頃ニ迫ヘハ朽敗シテ復タ使用ス可ラサルニ至ラン其レ然リ二十年後ニ至レハ五百石以上ノ日本形船ヲ一掃シ盡ササルモ其大半ヲ減スルヤ明白ニシテ乍チ運輸ニ障礙ヲ生セン是レ本官ノ憂慮スル所トス又某議官ハ海軍擴張ノ說旨ヲ唱ヘテ本案ヲ維持スレトモ平時ニ於ル人民ノ便否ヲ問ハス惟タ變時ニノミ備フルヲ以テ得タリト爲スハ本官ノ解セサル所ナリ又某議官ハ西洋形船ヲ製造スルハ何レノ地方ニ在テスルモ能ハサルニ非スト云ヘリ說ノ如ク小船ナレハ東京函館等ニ在テ製造スルヲ得ルモ二三百噸以上ノ西洋形船ニ至テハ造船所ニ非サレハ能ハス殊ニ製造シテ水中ニ浮出スルハ頗ル易ケントモ修繕

スル爲メニ陸地ニ移揚スルハ極メテ難シ但シ百噸内外ノ船舶ナレハ側面ニ傾ケテ修繕スルヲ得ルモ大船ニ至テハ鐵車ヲ以テ陸地ニ移揚スルノ困難ヲ見シ故ニ造船所ノ準備モ亦深ク商量セサル可ラス要スルニ舊貫例習モ時ニ或ハ一頓ニ改正スルヲ要スル有レトモ本案ノ目的ノ如キハ徐徐ニ之ヲ謀ラサルヲ得ス某議官ノ運輸事業ハ舉テ會社ニ託ス可シト說ケルハ高尚ニシテ甚タ是ナル如キモ廢案說ハ却テ國家ノ經濟ヲ慮ルノ深キニ出ルヲ知ラサル可ラス

○議長 發議已ニ盡キタルヲ以テ決ヲ取シ十四番ノ廢案說ニ同意スル者ハ起立セヨ

起立者十六人

○議長 少數ナルヲ以テ十四番ノ廢案說ハ消滅ス

○十三番 西村貞陽

廢案說ノ消滅ニ歸シタルヲ以テ過刻豫陳セシ如ク

「三」ノ一字ヲ削リテ原案ニ復スル修正說ヲ提出ス但シ原案ノ實際ニ苦情ヲ生セシム可キ望慮ハ造船所ノ準備如何ヲ憂フルニ在ラス從來日本形船ノ船長ハ多クハ船主ノ雇人ニシテ其老衰シ若クハ死亡セルトキハ其子之ニ代リ且其船主ノ貨物ヲ賣却セル損益ヲ併セテ負擔スル習慣ヲ成シ眞ニ信用ノ深厚ナル者ナルニ今此法令ヲ發スルトキハ是等ニ西洋形船ノ運轉ヲ託スル能ハサルヲ以テ已ムヲ得ス信用ノ淺薄ナル他人ヲ使用セサルヲ得サルヲ慮ルニ在リ然ルト雖モ數年ヲ延フルモ到底一タヒ此苦情ヲ致スヲ免レサル可シ且既ニ危險ナル日本形船ヲ變シテ安全ナル西洋形船ヲ用ルヲ是認スル以上ハ迅ク之ヲ斷行スルヲ利益アリトス過刻本官ハ造船所ノ缺

乏ヲ憂ヘサルコトヲ論スルニ方リ大船ヲ外ニスレハ苟モ船卸ヲ爲スニ適スル處所ニ在テハ船舶ヲ製造スル能ハサル無キヲ云ヘリ然ルニ十四番ハ之ヲ駁シテ修繕ヲ加フルニ船渠ノ必要ナルヲ説ク實ニ大船ニ就テ之ヲ言ヘハ十四番ノ言ノ如クナレトモ百噸内外ノ船舶ニ係レハ苟モ船卸ヲ爲シ得ル處所ニ在テ修繕スルハ難カラサルナリ其他原案回復説ノ旨趣ハ過刻既ニ陳辨セルヲ以テ今復タ之ヲ贅セス幸ニ賛成ヲ望ム

○九番 三浦安

賛成ス本官ハ前キニ修正案ヲ議題ト爲スニ同意シ今又原案恢復説ニ同意スルハ變説セルニ似タレトモ前者ノ所爲ハ廢案説ヲ防制スルニ出タリ抑モ修正案ハ原案ノ急劇ナルヲ寛和セルモ苟モ原案ノ旨趣ヲ是認スルトキハ却テ迅ク之カ施行ヲ望マサル可

ラス某議官ハ本官ノ原案ヲ發スルモ障碍ヲ生セスト云ヒシヲ駁シテ十五六年前ニ製造シタル船舶ハ明治二十年ノ頃ニ迨ヒ朽壞ス可キニ因リ然ク論スルハ失當ナリト云フモ本官ノ前説ハ某議官ノ今ヤ人民ノ困窮ニ陷レルヲ以テ此禁令ヲ發スルハ得策ニ非スト云ヘルニ對シテ其言ヲ發セルノミ蓋シ明治二十年後ニ迨ヒテ障碍ヲ生スルハ今日ノ時勢ト相ヒ關係セサレハナリ今ヤ議場ニ在テ十六名ハ既ニ廢案説ニ同意セリ其他調査委員モ必ス反對ノ位地ニ立ツ可ケレハ原案回復説ハ恐クハ行ハレサランモ本説ノ出ル以上ハ之ヲ賛成セサルヲ得ス論者必ス曰ン期限短促ナレハ乗組人ノ運轉ニ熟セサルヲ以テ危險ナリ造船所乏少ナルヲ以テ運輸ニ障碍ヲ生ス可シト然レトモ造船所ハ必シモ多數ヲ要セス若シ一舉シテ許多ノ船

船ヲ製造セントナラハ障碍ヲ生ス可キモ今日見ニ已ニ製造セル有
レハ明治二十年ノ後ニ迫フモ決シテ障碍ヲ生セサル可シ若シ原案
ノ旨趣ノ果シテ明治二十年ヨリ五百石以上日本形船ノ運轉ヲ禁止
スルニ存セハ乗組人ニ缺乏ヲ告ク可キモ惟タ其製造ヲ禁止スルニ
止マレハ是亦決シテ障碍ヲ生セサル可シ其レ然リ造船所乗組人ニ
シテ既ニ障碍ヲ生セサル以上ハ苟モ原案ノ旨趣ヲ是認スル各官ノ
幸ニ本説ニ賛成センコトヲ請フ但シ從來一千圓ニテ一隻ノ日本形
船ヲ製造スルヲ得タルニ明治二十年後ハ一萬圓ヲ以テ一隻ノ西洋
形船ヲ製造セサル可ヲサル困難ヲ感スル有ンモ是等ハ已ムヲ得サ
ルノミ些少ノ障碍ヲ怕レテ躊躇スルトキハ改良ハ遂ニ望ム可ヲサ
ラントス要スルニ人民ノ若シ西洋形船ノ利便ヲ知ラサレハ原案ヲ

非視ス可キモ今ヤ然ラス即チ已ニ之ヲ發スル時機ニ會セルヲ證ス
可キナリ

○三十五番 細川潤次郎

賛成ス本説ハ恐クハ議場ニ成立ス可ヲサルモ發
議者ノ陳辨セル理由ニ對シテ之ヲ賛成セサルヲ得サルナリ已ニ明
治八年以來北海道ニハ同一ノ法令ヲ實施セルニ非スヤ素ヨリ風浪
ノ險夷ハ異ナルモ今ヤ全國ニ實施ス可キ時機全ク熟セリ因テ原案
ニ據テ施行センコトヲ望ム

○議長 十三番ノ原案回復説ハ賛成者アリ問題ト爲ス午餐ノ爲メニ
一旦散會セン

午後零時二十分閉場

午後ノ會議ハ十日ニ延ヘリ

元老院會議筆記明治十八年六月十日

○第四百七十一號議案日本形船五百石以上製造禁止ノ儀第二讀會六月八日及第續會

三讀會

議長東久世通禧

出席議官

二番	小畑	美稻
三番	箕作	麟祥
五番	青山	貞
八番	西	周
九番	三浦	安
十番	福原	實

十一番	長松 幹
十三番	西村 貞陽
十四番	大鳥 圭介
十五番	長岡 護美
十六番	伊丹 重賢
十七番	林 友幸
十八番	柴原 和
十九番	籠手田 安定
二十番	海江田 信義
二十三番	鍋島 直彬
二十四番	楫取 素彦

二十五番	何 禮之
二十六番	鍋島 幹
二十七番	壬生 基修
二十八番	神山 郡廉
三十番	安藤 則命
三十一番	上杉 茂憲
三十二番	官本 小一
三十三番	橋口 兼三
三十四番	楠本 正隆
三十五番	細川 潤次郎
三十六番	榎村 正直

- 三十七番 神田 孝平
- 三十九番 大久保一翁
- 四十番 渡邊 清
- 四十一番 町田 久成
- 四十五番 河田 景與
- 四十六番 田邊 太一
- 五十一番 津田 眞道
- 五十二番 野村 素介
- 五十三番 黒田 清綱
- 五十四番 村田 保
- 五十七番 永山 盛輝

内閣委員 一番 参事院議官 安場 保和

同 二番 参事院議官補郷田 兼徳

午前第九時五十五分開場

○議長 本日ハ第四百七十一號議案第二讀會ノ續會ヲ開ク問題ハ前會ニ於テ十三番ノ提出セシ「二十三年」ノ「三」ノ一字ヲ削去スル修正是レナリ

○十八番 柴原和 本官輩ノ「三」ノ一字ヲ添加セシ旨趣ハ既ニ前會ニ縷陳セル如ク敢テ廢案論ト修正説トノ中裁ヲ爲スニ非ス他ニ見ル所ノ在ル有テ然ルナリ思フニ「三」ノ一字ヲ存スルト之ヲ削ルトニ因テ生スル利害如何ヲ比較セハ其之ヲ存スルノ利タルヤ言ヲ待タサラン抑モ本案ハ急激ノ變革ナレトモ既ニ脆弱ナル日本形船ノ危険

ニシテ堅牢ナル西洋形船ノ安全ナルヲ知悉スル以上ハ必ス之ヲ決行セサル可ラス然レトモ之ヲ決行センニハ豫メ此ヲ去テ彼ニ就ク目的ヲ明示スルヲ要ス若シ餘地ヲ假サスシテ急遽ニ事ニ從ハハ必ス船主商人ニ困難ヲ與ヘン今此ニ二十年一月ヨリ製造ヲ禁止スト云ハハ明治十四五年ニ製造シタル五百石以上ノ日本形船ハ漸ク朽腐シテ其跡ヲ絶タントス且若シ一年許ノ猶豫ヲ借スノミヲ以テシテハ到底新ニ西洋形船ヲ製造スル目的ヲ立ル能ハス運轉手ノ如キモ主任官ノ言ニ據レハ二十三年ニ至ラハ眼ニ一丁字無キ者ニモ便宜法ヲ設ケテ免狀ヲ與フル經畫ヲ爲セル有リト宜ク餘地ヲ與ヘテ以テ前途ノ目的ヲ確立セシムヘキナリ且夫レ西洋形船ニ搭載スル貨物ハ啻ニ毀損ノ保證ヲ爲ササルノミナラス其運賃太タ昂貴ナリ

之ニ反シテ日本形船ハ貨物ニ對シテ毀損ノ保證ヲ爲シ其運賃モ亦頗ル低廉ナリ西洋形船モ保險法無キニ非サレトモ其保險金タル甚タ巨額ヲ要ス故ヲ以テ貴重ナラサル商品ヲ西洋形船ニ搭載セシメ巨額ノ保險金ヲ付スルハ到底爲スヲ得ヘカラス反對論者ハ海軍擴張ノ補助ニ供スト主張スレトモ今日ハ決シテ武斷政治ヲ行フ可キニ非ス又適ニ釁ヲ外國ニ啓ケル無シ毫モ二十年ヲ必ス可キノ理由ヲ見ス某議官ハ二十年ヲ待タス十九年ト爲スモ可ナリト云ヘリ是レ大ニ然ラス抑モ本案ハ將來ノ目的ヲ豫示スル者ニ非スヤ果シテ然ラハ今年之ヲ布告シテ明年中ニ其目的ヲ立テシメントスルハ豈ニ望ム可キノ事ナランヤ十三番ハ開拓使ノ曾テ舉行シタル事實ヲ擧テ議論ノ根據ト爲シ以テ各官ノ感觸ヲ誘起セリ然レトモ其議論

中ニ實際ニハ此事無リシモ官府ヨリ若干ノ資金ヲ補助スル方法ヲ設ケタリト云ヘリ其レ然リ官府ヨリ補助ヲ與ヘハ二十年ヲ待タスシテ之ヲ禁止スル固ヨリ可ナレトモ本案ノ旨趣ハ敢テ然ラス且ヤ開拓使ニ於テハ補助ノ方法ヲ設ケ幸ニ之ヲ請フ者無リシモ敢テ援キテ以テ全國ヲ概ス可キニ非ス修正案ノ理由此ノ如クナルヲ以テ各位ノ本案ヲ賛成センコトヲ切望ス

○十三番 西村 貞陽

本官ハ前會ニ原案恢復說ヲ提出シ幸ニ賛成者ヲ得テ問題ト爲レリ今日ハ更ニ前說ヲ敷衍シ以テ一層其理由ヲ明白ナラシメント欲スルニ際シ十八番ハ修正報告案ノ理由ヲ細說セリ然ルニ其理由タル往往ニ了解スル能ハサル事實ヲ存ス因テ先ツ十八番ニ對シ一辨セン十八番ハ原案ニ據レハ十四五年ノ構造ニ係ル者ハ

忽チ解船セサル可ラスト云フモ其船ノ壽命即チ實用ニ適スル年限ハ明治二十五年乃至二十八年ニ達スルヲ問ハス苟モ破壊或ハ朽腐スルニ非サルヨリハ固ヨリ之ヲ使用スルニ妨ケス又其二十年ニ限ルハ急激ナリト喋辨スレトモ既ニ前會ニ於テ運轉手ヲ得ルニ支障セサル理由ヲ陳述セシ如ク運轉手ノ少數ナルニ應シテ西洋形船ノ製造モ亦必ス少數ナルハ今日ノ現況ナレトモ人民已ニ彼此ノ安全ト危險ト便利ト不便利トノ比較ヨリシテ西洋形船ヲ増加スルニ隨ヒ運轉手モ亦必ス増加スルニ至ル可シ抑モ製造費用ハ千石ノ日本形船ニ當ル百噸ノ西洋形船ハ三倍ヲ要ス既ニ三倍ヲ要スレトモ其運用ハ日本形船ニ五倍シ利益亦之ニ稱フ而シテ保險ヲ附スルヲ得可ク又安全ナリトス故ニ本法ノ爲メニ全國ノ海運ニ窒礙ヲ致スト

ノ顧慮ハ無用ニ屬ス試ニ看ヨ明治十二年ヨリ十六年ニ至ル五年間ニ二萬艘許ノ日本形船ハ三分ノ一弱ヲ減シ而シテ西洋形汽船風帆船ハ共ニ二倍ヲ増セリ蓋シ西洋形船ハ少數ナルモ其運用ニ至テハ日本形船ニ二十倍スル比例ヲ爲シ日本形船ノ千石ハ西洋形船ノ百噸ト其積量ヲ同ウスルナレハ其載量ハ十倍シ其運用ハ二十倍ス故ヲ以テ百噸ノ西洋形船一艘ハ千石ノ日本形船三十艘ニ比敵ス今日共同運輸會社及ヒ三菱會社ノ搭載物貨ノ乏少ナルニ苦ムハ蓋シ其船舶ノ供給多キニ過クルカ爲メナリ思フニ比年以來政府ノ獎勵シ人民ノ勤勞スルヲ以テ次第ニ物産ノ増殖セシニ拘ラス搭載貨物ノ乏少ヲ訴フルハ日本形船ノ載量ニ十倍シ運動亦之ニ二十倍スル西洋形船ノ増加セシニ由ル是レ自然ノ理數ナリトス故ニ原案ニ據ル

モ決シテ海運ニ窒礙ヲ致スノ憂ヒ無キナリ現ニ上海香港仁川浦鹽斯德等ニ航路ヲ通シタレトモ實際ニ得失相償ハス故ニ今日ニ當リ外洋ニ航路ヲ開クハ容易ノ事ニ非ス反對論者ハ薪炭鹽其他ノ艱大物品ハ日本形船ヲ以テ運送セサレハ得失相償ハスト云フモ薪炭等ハ遠隔地方ヨリ運送スル者ニ非スシテ多クハ便近地方ヨリ運送ス今試ニ東京ヲ以テ之ヲ例センニ薪炭等ヲ輸入スルハ遠キモ紀伊ニ過キスシテ多クハ沿海航船ヲ用ウ此沿海航船ハ五百石以下ヲ多シトス是レ薪炭等ヲ積載シテ沿海ヲ航漕スルニハ大船ヲ用ウルヨリハ却テ小船ヲ用ウルヲ便利ト爲セハナリ又十八番ハ日本形船ハ保險ヲ要セサレトモ西洋形船ハ保險ヲ要ス而シテ之ヲ爲スニハ運賃隨テ多キヲ加フト云フハ何ソヤ思フニ日本形船ハ保險ヲ附スル能

ハサルヲ以テ之ヲ附セサルノミ故ニ一日タモ速カニ保險ヲ附スルヲ得ル船舶ニ改良セサル可ラス本官ハカメテ人民ノ保險ヲ附スルニ傾向センコトヲ切望スルナリ今日人民未タ此利益ヲ知ラサルヲ以テ年年歳歳ニ貴重ナル人命財産ヲ海波ノ中ニ投棄ス今夫レ難破ノ船數ハ日本形ト西洋形ト差等無キニ似タルモ其實際ノ航行度數ノ差異ヲ以テ比例セハ西洋形船ノ難破ハ甚タ少ナシトス政府ハ人民ノ自然ニ西洋形船ニ變改ス可シト云ヒ以テ放任ス可キニ非ス早ク其改良ノ方向ヲ示サス而シテ舊慣ニ安ンスル陋民ノ西洋形船ニ變換スルノ期ヲ望ムハ恰モ河清ヲ待ツノ類ナラン故ニ早ク其方向ヲ示シテ所謂譜代船頭ナル者ヲ漸次ニ運轉手ニ變セシムルヲ要ス又十八番ハ原案ニ據レハ何ノ利益スル所ソ實ニ其理由ヲ知ル能ハ

スト云ヘリ嗚呼是レ何ノ言ソヤ若シ人民ノ自然ノ進化ニ放任セハ年ヲ逐フテ貴重ナル人命財産ヲ空ク海波ノ中ニ投棄セントス此ノ如キハ國家ノ大不經濟ニシテ即チ船主商人ノ損失ナリ故ニ日本形船ヲ存スル一年ヲ遅クスレハ一年ノ損失ヲ受ケ之ヲ廢スル一年ヲ早クスレハ一年ノ利益ヲ收メン明治八年ニ於テ北海道ニ五百石以上日本形船ノ製造ヲ禁止セシハ其沿海ノ風濤殊ニ險惡ナルニ由ル十八番ハ當時北海道ニ五百石以上日本形船ノ製造ヲ禁止セシハ補助ノ方法ヲ設ケタルヲ以テ尙ホ可ナレトモ本案ニハ之レ無シト云ヘリ夫レ明治八年ハ今日ヨリ十二年ノ以前ニ係リ航海事業未タ振興セサルノ日ナリ然ルモ人民ハ決シテ其禁止ニ不平ヲ鳴ラサス逐次ニ西洋形船ノ便益ヲ曉リテ其方途ニ進メリ現今ノ調査ニ據ルニ

西洋形百噸以上ノ風帆船ハ百八隻ニシテ五百石以上ノ日本形船ハ千百二十一隻ト爲ス其五百石ハ五十噸ニシテ百噸ハ千石ニ當リ其運動亦之ニ稱フヲ以テ船舶ノ供給多キニ過ク是故ニ本案ヲ發布スルモ運漕ニ支障ヲ生セス且其進化ニ從ヒ賃錢モ漸次ニ低減ス可シ石炭米穀ノ如キハ既ニ汽船ヲ以テ運漕セリ北海道ノ胴鯶ノ如キモ從來苞被スラ之ヲ要セサリシニ近來ハ改良シテ苞被ヲ加フルナレハ漸次ニ汽船ニ搭載スルニ至ラントス船舶ノ供給多ケレハ運賃ノ低減スルハ常數ナリ近日日本形船ノ運漕ハ大ニ其物貨ノ量額ヲ減少セリ要スルニ運轉手ヲ得ルト西洋形船ヲ製造スルトニ支障ヲ來ス無キハ前會既ニ陳述セリ實ニ新ニ製造スル西洋形船ハ年年多數ニ上ホルニ非サレハ見在ノ造船所ヲ以テ其需要ヲ滿タスニ足レリ

況ヤ現在ノ造船所スラ閑暇ニ苦メル今日ニ於テヤ凡ソ船舶ハ必ス水行ニ賴ル者ナレハ越後等ヨリ東京ニ囑託シテ製造スル有リ其落成シテ船主ノ地方ニ航スルヤ或ハ早ク已ニ貨物ヲ搭載シテ運轉ヲ試ムルヲ見ルナリ又十四番ノ本案ヲ目シテ外面ヲ裝飾スル者ナリト云フハ最モ解ス可ラス人間形體上ノ裝飾即チ散髮洋服及ヒ洋風家屋ニ變改スルヲ勸奨スル如キハ決シテ政府ノ干涉ス可キ事ニ非サルハ論ヲ待サレトモ彼ノ廢刀令ノ如キ佩刀ハ我國一千有餘年ノ慣習ナルモ其危險ト不便トノ爲メニ斷然之ヲ發布シタルニ非スヤ日本形船モ亦是レ人命財產ニ危險ヲ與フルヲ以テ斷然其製造ヲ禁止セサル可ラス九番ハ前會ニ本官ノ動議ヲ賛成スル理由トシテ海軍擴張ニ便益スルヲ云ヘリ是レ直接ノ理由ト爲セシニ非サレト

モ間接ノ理由ニ係ル實ニ西洋形風帆船ヲ軍用ニ供シ運轉手ヲ軍事ニ使フコトハ無ル可キモ軍艦モ敢テ石炭ノミニ賴ラス時ニ或ハ帆ヲ用ヒテ之ヲ行ル有リ他日軍艦構造術ノ大ニ進歩セハ帆ヲ用ヒサルニ至ル可キモ石炭ノ需用ハ軍艦ノ進退ニ關係ス故ニ時ニ臨ミ帆ヲ用フルハ已ムヲ得サルノミ然レハ則チ運轉手モ時ニ臨ミ其事ニ服セサルニ非サル可シ彼ノ漁業ヲ獎勵スル如キモ海軍ニ資益スル一端ナリ我國今日西洋形船ハ少數ナレトモ物産ニ比スレハ既ニ餘リ有リ故ニ其製造費用多額ナリト云フモ決シテ海運ニ支障セス實ニ二十年ヨリ本案ヲ實施スルヲ得益ナリト信ス修正報告案ニ同意セシ各位モ尙ホ熟考ヲ加ヘテ本官ノ動議ヲ賛成センコトヲ望ム

○十八番 柴原和

十三番ハ本官ノ言ヲ誤解スルニ似タリ本官ハ敢テ明

治十四五年ニ製造シタル日本形船ハ本案ノ爲メニ二十三年ニ至レハ直ニ解船セサル可ラスト云フニ非ス抑モ日本形船ノ壽命ハ十年ヲ常數ト爲スト雖モ亦是レ概言ス可キニ非ス即チ其運轉頻數ナレハ八九年緩寬ナレハ十四五年ヲ保持ス十三番ハ半時間餘ヲ費シテ喋喋辨說スレトモ其主旨ハ敢テ二十三年ト爲セシ修正案ニ對スルニ非スシテ廢案說ニ對スルニ在ルノミ其二十三年ニ對スルハ獨リ日本形船ヲ廢スル一年ヲ早クスレハ一年ノ利益ヲ收ムト云ヘル一點ニ止マレリ又若シ廢刀令ニ較論セハ斷然今日ヨリ禁止ス可キモ本案ハ決シテ然スルヲ得ス故ニ十三番ノ言ハ廢案說ヲ駁スル者ニシテ本案ニ對シテハ不要ナリ又日本形船ハ保險ヲ附セサル爲メニ運賃高昂ナラス若シ貴重ノ物品ナラハ西洋形船ニ託シテ保險ヲ附

ス可キモ薪炭等ノ粗大物品ニ保險ヲ附スル愚者アラシヤ故ニ日本形船ハ難破ノ保險ハ之ヲ附セサルモ舟子輩ノ物貨ヲ竊取スル如キ惡弊ヲ防ク保證ヲ爲スナリ要スルニ十三番ノ廢案說ニ對シテ此等ノ論ヲ陳ヘサリシヲ憾ム

○議長 十三番ノ動議ニ同意スル者ハ起立セヨ

起立者四人

○議長 少數ナルヲ以テ十三番ノ修正說ハ消滅ス

○十四番 大鳥圭介 本官ハ廢案說ヲ唱道シテ失敗シ今又夕原案恢復說モ

廢棄セラレタルヲ以テ聊カ一辨セサルヲ得ス實ニ本官ハ廢案論者ナレハ修正報告案ニ同意ス可キ理由無シト雖モ寧ロ原案ニ比スレハ緩和ニシテ營業者ニ利セント信スルカ故ニ決議ニ際セハ修正報

告案ニ起立ヲ表セントス

○議長 本案ニ同意スル者ハ起立セヨ

起立者二十人

○議長 多數ナルヲ以テ本案ニ決ス

○番一 安場保和 本案ハ敢テ急施ヲ要スルニハ非サレトモ既ニ數日間

ノ審査討議ヲ經テ第二讀會ヲ終リシナレハ今日直ニ第三讀會ヲ開シコトヲ請求ス

○議長 番外一番ノ請求ニ應ス可シト思惟スル者ハ起立セヨ

起立者二十二

○議長 多數ナルヲ以テ直ニ第三讀會ヲ開ク

書記官 西山眞平 朗讀

布告案

日本形五百石以上ノ船舶ハ明治二十年一月ヨリ其製造ヲ禁止ス
右奉 勅旨布告候事

○十三番 西村貞陽 第二讀會ニ「三」ノ一字ヲ削ル修正說ハ同意少數ノ爲
メニ消滅シタルヲ以テ今又之ヲ提出セサル可シ只「五百石」ノ下
ニ積ノ一字ヲ添ヘント欲ス蓋シ五百石ト爲スモ不可ナル無レトモ
積ノ一字ヲ加フルヲ明瞭ト爲セハナリ

○二番 小畑美稻 本官ハ前會ニ十四番ノ廢案說ヲ賛成セシニ不幸ニシテ
消滅シタルモ今更ニ前議ヲ變セス廢案說ヲ提出ス思フニ本案ヲ發
布スルヤ脆弱危險ナル日本形船ヲ去テ堅牢安全ナル西洋形船ニ移
ルナレハ大ニ本案ヲ賛成ス可キナレトモ今日民間ノ困弊ヲ推シテ

之ヲ考フルトキハ俄ニ日本形船ヲ去テ西洋形船ニ移ラシメント欲
スルハ資本匱乏ナル爲メニ恐クハ望ム可ラサラン果シテ然ラハ忽
チ運輸ノ支障ヲ感セシメントス且ヤ本案ハ現在ノ船舶ノ運用ヲ禁
止スルニ非ス唯其製造ヲ二十三年後ニ禁止スル者ナレハ今日ニ在
テ五年後ノ事ヲ言フヲ要セス宜ク民間ノ困弊ノ治癒スルヲ待チ二
十一二年ノ交ニ之ヲ發布スヘキナリ是ヲ以テ姑ク本案ヲ束閣セン
コトヲ望ム

○議長 十三番ノ動議ハ賛成者無キヲ以テ消滅ス

○十九番 籠手田安定 本官ハ第二讀會ニ當リ十四番ノ廢案說ヲ賛成セシ
如ク今又二番ノ廢案說ヲ賛成ス其理由ハ十四番ノ前會ニ陳述セシ
所ニ讓リテ之ヲ贅セス

○五十一番 津田 眞道 二番ヲ賛成ス其結果ハ前會ニ於ケル廢案說ト同一ナル可キモ蓋シ衷情默止スルヲ得サルナリ

○十四番 大島 圭介 大ニ二番ヲ賛成ス只今二十三年ト爲スニ同意ヲ表セシハ二十年ト比較シ寬猛緩急ノ已ムヲ得サルニ出テシノミ只今二番ノ動議出タル以上ハ欣然トシテ之ヲ賛成スルナリ

退席

五十二番 野村 素介

○三十一番 上杉 茂憲 本官ハ初ヨリ廢案說ヲ主持スルヲ以テ二番ヲ賛成ス其理由ハ日本形船ノ脆弱危險ナルト西洋形船ノ堅牢安全ニシテ利便ナルトノ比較ハ固ヨリ既ニ明白ニシテ掩フ可ラサル事實ナレトモ本案ノ如ク年期ヲ定メテ製造ヲ禁止スルハ急激ト謂ハサル可ラス若シ人民ノ舊慣ニ固著シ以テ西洋形船ニ變改セサル爲メニ本

案ヲ發スト云ハハ已ムヲ得サレトモ其智識ハ日ニ月ニ開進シ既ニ西洋形船ト日本形船トノ便否如何ハ其熟知スル所タリ然ルニ今日ノ困弊ニ遭フテ西洋形船ヲ製造スル資力ニ乏ク爲メニ空ク志ヲ抱テ猶豫スルノミ是ヲ以テ急激ナル禁止令ヲ布ス地方官ヲシテ西洋形船ヲ製造ス可キヲ人民ニ懇諭セシムルヲ今日ノ得策ト爲ス若シ然ラスシテ本案ヲ發セハ政府必ス保護ヲ加ヘ補助ヲ與ヘサル可ラス故ニ本案ヲ中止センコトヲ望ム

○三十六番 榎村 正直 本官モ第一讀會以來廢案說ヲ主持スルヲ以テ二番ニ左袒ス

○三十三番 橋口 兼三 本官モ二番ヲ賛成ス前會ニ十四番ノ明白ニ廢案ノ理由ヲ陳述スル有リテ本官モ亦起立ヲ表セリ抑モ法律ハ徹頭徹尾

已ムヲ得サル機會ニ在テ始メテ發布スル者トス政府ノ人民ノ事業ニ干渉スルニハ深ク時態ヲ洞察シ果シテ此ノ如クセサルトキハ人民ニ便ナラス利ナラサルコトヲ商量シ以テ始メテ事ニ從フ可キナリ其レ此ノ如クシテハ法律ニシテ一モ實施ス可ラサル者無ラントス本官ハ本案ニ關シ主務省ノ調査書ヲ閱讀シタルニ主務省ハ會社或ハ地方官ニ下問シ以テ本案ヲ必要ト爲スニ至レルヲ知ル而シテ其書中ニハ日本形船西洋形船ノ艘數ヲ具載セリ然レトモ二十年以後ハ西洋形船ノ果シテ續續トシテ増加スルヤ如何ハ豫メ知ル可キニ非サラン又今日ハ日本沿海到處悉ク西洋形船ニ變改セサル可ラスト爲ス如キ時機ニ非ス實際日本形大船ノ減少シテ西洋形船ノ増多スルハ事實上ニ在テ明白ナリ又便不便ト安全危險トハ彼此ノ比較

ニ於テ既ニ明白ナレトモ民間ノ困弊其極度ニ達スル今日ニシテ本案ヲ發布セハ實際ニ大ナル支障ヲ生セシメントス試ニ看ヨ日本形船ノ船人ハ數代繼承セル者ナリ是等ノ徒ハ五百石以上ノ船數減少セハ他ニ轉業セサル可ラス其感觸ハ果シテ如何ソヤ之ヲ要スルニ本案ハ主務省ニ於テモ調査未タ周到セサル者ト信ス政府タル者此ノ如ク禁止セハ人民ハ必ス西洋形船ヲ製造スルナラント云フ如キ推想ヲ以テ急激ナル改革法律ヲ發ス可キニ非ス其之ヲ發スルニハ必ス細大漏サス調査ヲ加ヘ確乎不動ノ定見ヲ具スルヲ要ス僅々一會社ノ意見ヲ聞キ必ス推想ヲ誤マラサル可シトシテ改革ヲ斷行スルハ失體ニ非スヤ二十三年ニ延フル修正ハ原案ニ比スレハ稍ヤ可ナレトモ今日ヨリ起算スレハ其間四年ニ過キス故ニ今日ハ姑ク本

案ヲ中止シ實際上ニ於テ人民ノ西洋形船ニ非サレハ運轉スルニ勝
ヘスト爲ス時機ノ到來スルヲ待ツ可キノミ到底政府ヨリ年期ヲ定
メテ製造ヲ禁止スルハ其理由無キ者トス故ニ廢案ニ付スルヲ望ム

○議長 二番ノ動議ハ定數ノ賛成者アルヲ以テ問題ト爲ス

○外一番安場保和 議場ノ景況ヲ觀ルニ廢案說ニ傾向スル者ノ如シ第二

讀會以來本案ノ今日ニ必要ナル理由ハ調査委員ヨリ詳細ニ陳述セ
シヲ以テ既ニ廢案說ヲ聞クノ虞ハ之レ無シト信セシニ何ソ圖ラン
二番ノ動議ノ出ル有リテ問題ニ上ホラントハ思フニ二番ノ說旨ハ
二十三年ニ延期セハ今日ヨリ豫示スルヲ要セス二十三年ノ交ニ至
リ始メテ之ヲ布告ス可シト云フニ在ラン其布告ヲ發スル時機ヲ伸
縮スルノ當否ハ十八番ノ陳述ニ讓リテ本官復々贅辨セス既ニ數千

百年ノ慣習ヲ打破スル布告ナルヲ以テ第二讀會ニハ二十三年ト寛
和スル修正說ニ決セリ今ヤ廢案論ノ要旨ハ人民ノ自然ノ進化ニ推
諉シテ政府ノ干涉ヲ制止シ時機ノ到來スルヲ待テ本案ヲ發布ス可
シト云フニ在ルモ之ニ反シテ政府ノ精神ハ將來ノ目的ヲ豫示スル
ニ在リ某議官ハ主務省ノ調査周到ナラス輕忽ニ本案ヲ布告ス可キ
ニ非スト云ヘリ然ルニ主務省ハ明治八年ニ北海道ニ施行シテ實際
ニ支障ヲ致ササリシ的例ニ據リ且全國年一年ニ西洋形船ノ増加ス
ル事實ヲ檢シ客歲ノ諮問會ニ參集シタル各地方官モ亦皆本案ノ精
神ヲ賛成シテ斷然ニ此禁止令ヲ今日ニ布クモ可ナリト明言セリ主
務省ハ實ニ此一定不動ノ意見ニ據テ本案ノ布告ヲ望メルナリ但其
某縣下ヨリハ鹽米幾千萬石ヲ輸出スト云フ如キ細密ノ調査ノ未タ

充分ニ周悉セサルノミ夫レ凡ソ改革ヲ決行スルニハ百事整頓スルヲ待テ始メテ事ニ從フ可キニ非ス是レ内外國ノ通論ナリ我邦王政維新以來西洋形船ノ運用ヲ人民ニ誘導セシモ數百千年ノ慣習ヲ一朝ニ打破スルハ容易ノ事業ニ非サルヲ以テ明治八年ニ北海道ノ一地方ノミヲ改革シ以テ今日ニ及ヘリ各位モ云フ如ク人民ハ既ニ已ニ西洋形船ノ便利ト安全トヲ洞知スレトモ事情ニ羈絆セラレテ其改良ニ從フ能ハス故ニ政府ハ其職掌上斷然ニ本案ヲ布告セントスルナリ日本形船ハ一年ニ三回ノ運轉ニ止マリ船人輩多クハ無事ニ苦ミ間マ西洋形風帆船ノ水夫ニ從事スル者有リ又前會ニ於テ十三番モ述タル如ク日本形船ト西洋形船トハ其運用ニ一ト五ノ差異ヲ存ス造船所ノ如キモ見在ノ造船所ヲ以テシテ日本形船ニ代用スル

西洋形船ヲ作ルニ足レリ但或ハ修繕ニ自由ヲ得サル有ル可キモ既ニ本案ヲ廢布スルヤ利ヲ見テ進ムハ人民ノ常情ナルヲ以テ北海道ニ於テモ造船所ヲ設クルニ至ルヲ期ス可シ又製造費ハ日本形船千石積ノ者ハ上等ニシテ三千七百圓ヲ要シ西洋形船百噸積ノ者ハ八千圓ヲ要スルナレハ幾ント倍額以上ニ達スレトモ船主ハ多クハ資本ニ富メル者ナルヲ以テ解船ノ時機ニ先タチ其費額ヲ準備ス可キナリ日本形船ノ北陸道諸國ヨリ大坂等ニ廻航スル者ノ既ニ大坂ニ達スルヤ其船ヲ陸上ニ安ンシ船人ハ陸行シテ郷里ニ歸リ他業ヲ營ム等一年概子一二回ノ運轉ニ過キスシテ固ヨリ西洋形船ノ平常ニ斷エス運轉スル如キニ非ス故ニ本案ヲ發スルモ決シテ運輸ノ便ヲ欠カサルハ内閣ノ確信スル所ナリ主務省ヨリ今日輿論既ニ西洋形

船ニ傾向シ本案ヲ發布スル時機既ニ熟セリト上申スル以上ハ眼ヲ遠大ニ注キ以テ物産ノ繁殖ヲ謀リ富國ノ術ヲ講スルニハ運輸ノ改良ヲ第一着手ト爲ス是レ政府ノ當然ナル職任ナリ二十三年ニ延期スル説ハ尙ホ恕ス可キモ廢案説ハ必ス防止セサル可ラス

○議長 他ニ發議無クハ決ヲ取ラン

○外一番安場保和 只今廢案論ニ對シテハ既ニ一辨ヲ下セリ實ニ本案ハ

全國官民ノ大利害ニ關係スル者ナルヲ以テ調査委員ヲ置キ密ニ調査ヲ遂ケ第二讀會ニハ修正案ニ決シ今ヤ又廢案論ノ勢力ヲ得ルニ至ル然ルニ此事ニ關シ政府ノ經畫スル所ハ一ニシテ足ラサルヲ以テ必ス廢案論ヲ防止セサル可ラス今日ハ闕席議員多數ナルヲ以テ取決ヲ延ヘ更ニ平心虛氣ニ各位ノ熟考ヲ加ヘンコトヲ望ム

○二十番海江田信義 本官ハ廢案説ヲ主持ス其禁止期限ノ伸縮等ハ本官

輩ノ辨論ヲ要セス理由ハ各位既ニ陳述シ盡セリ番外一番ニシテ廢案論ヲ防止セント欲セハ取決ノ延期ヲ請ハス本議場ニ在テ充分ニ之ヲ防止セハ可ナリ

○五十三番黒田清綱 本會ノ初メニ當リ番外一番ハ直ニ開會スルヲ望ミ

今又廢案論ノ勢力ヲ得タル爲メニ延會スルヲ望ムカ如シ議長ハ必ス之ヲ許諾セサルヲ信スルモ爲メニ一言セン前會ニハ「三」ノ一字ヲ加フル修正ニ決セシモ畢竟是レ姑息ノ修正タルヲ免レサル者ナレハ寧ロ斷然ニ廢案ニ付スルヲ得タリトス

○十八番柴原和 五十三番モ言フ如ク本會ハ内閣委員ノ請求ヲ議場ニ

間ヒ同意ノ多數ヲ得テ開會シタル者ナルニ廢案論ノ勢力ヲ占ムル

ヲ見テ更ニ取決ノ延期ヲ請求セリ若シ此ノ如キ例ヲ啓カハ後日ノ關係ヲ生セン既ニ半數以上ノ議官ノ在場セルヲ以テ議長ハ必ス内閣委員ノ請求ヲ容レサル可シト信ス併セテ一辨セン五十三番ハ「三」ノ一字ヲ加ヘタルハ姑息ノ修正ナリト云ヘリ此事タル某議官ハ二十五年ト爲スヲ望ミシモ本官ハ二十三年ヲ執レリ又二番ハ今日困弊ノ時ニ際スト云フモ敢テ直チニ本案ヲ施行スルニ非ス二十年後ニ施行スルナレハ之ヲ急激ト謂フ可ラス決シテ仲裁若クハ姑息ノ修正ニ非サルナリ

○議長 番外一番ハ取決ヲ延フル請求ヲ爲セトモ今日ノ參席議官ハ三十八名ナレハ少數ニ非ス故ニ發議盡キナハ取決セントス

○外一番 安場保和 言語ニ弊アリシ爲メニ五十三番ノ言ヲ來セルナル可

シ本官ハ退席議官ノ多キヲ覺ヘタルヲ以テ前ノ如キ請求ヲ爲セリ敢テ廢案論ノ勢力ヲ得タルヲ憂フルニ出ルニ非ス

○議長 二番ノ動議ニ同意スル者ハ起立セヨ
起立者十九人

○議長 正半數ナルヲ以テ本官ノ職權ニ依リ之ヲ決セン即チ本案ニ決ス例ニ從ヒ上奏セン散會セヨ

午後零時十分閉場

元老院會議筆記明治十八年五月十三日

○第四百七十二號議案電信條例
改定ノ儀檢視會

議長東久世
通禧

出席議員

二番 小畑 美稻

三番 箕作 麟祥

五番 青山 貞

六番 津田 出

八番 西 周

九番 三浦 安

十番 福原 實

十一番	長松 幹
十四番	大鳥 圭介
十五番	長岡 護美
十六番	伊丹 重賢
十七番	林 友幸
十八番	柴原 和
十九番	籠手田 安定
二十番	海江田 信義
二十三番	鍋島 直彬
二十四番	楫取 素彦
二十七番	壬生 基修

新文

〇

...

二十八番	神山 郡廉
二十九番	大給 恒
三十一番	上杉 茂憲
三十二番	官本 小一
三十三番	橋口 兼三
三十四番	楠本 正隆
三十六番	榎村 正直
三十七番	神田 孝平
三十八番	岩村 定高
三十九番	大久保 一翁
四十番	渡邊 清

午前第九時四十分開場

- 四十一番 町田 久成
- 四十三番 伊集院兼寛
- 四十四番 由利 公正
- 四十五番 河田 景興
- 四十六番 田邊 太一
- 四十八番 中島 錫胤
- 五十一番 津田 眞道
- 五十二番 野村 素介
- 五十四番 村田 保
- 五十五番 久我 通久

○議長 第四百七十二號議案ノ檢視會ヲ開ク本案ハ去月二十日議定
 上奏セシ電信條例案ニ修正ヲ加ヘ第八號ヲ以テ便宜布告シタル後
 ニ檢視ニ付セラレタル者ナリ條數多キヲ以テ朗讀ハ修正ノ條ニ止
 メ他ハ之ヲ畧ス

書記官 森山 茂 朗讀

第四十七條 私設ノ電線ハ官設ノ電線アラサル地ニ於テ一人又ハ
 兩人ノ用ニ供スルモノニ限り許可スルモノトス但傳話又ハ鉄道
 ノ用ニ供スルモノハ官設ノ電線アル地ニ於テモ許可スルコトア
 ルヘシ

○十四番 大鳥 圭介 本案ハ本院ニ於テ議定上奏セシ第四百六十七號議案
 ニ修正ヲ加ヘ便宜布告後ニ檢視ニ付セラレシ者ナリ因テ其修正ヲ

加ヘシ第四十七條ニ關シ一言セシニ前案ニハ「私設ノ電線ハ一人又ハ兩人ノ用ニ供スルモノニ限り許可スルモノトス」ト掲ケシヲ以テ本官ハ其第一讀會ニ方リ内閣委員ニ對シ何人ヲ問ハス一人又ハ兩人ニシテ私設電線ノ架設ヲ申請スルトキハ之ヲ許可スルヤ否ヤヲ質問セシニ内閣委員ハ一人又ハ兩人ト言ヘルハ假ニ會社ヲ以テ一己人ト看做シテ指稱スル者ニシテ即チ三菱會社ノ私設シ若クハ三菱會社ト他ノ會社トノ私設スル等ヲ謂ヒ官設ノ電線ト續接セントスル者ニ限り之ヲ許可スルニ在リト答辨セリ爾後本官ハ或ル電信事務ヲ掌ル者ニ就テ之ヲ質セシニ前案ノ如クシテハ支障ヲ生ス可シト云ヘリ果シテ今本案ノ如ク修正布告スル所ト爲レリ本官素ヨリ前案ニ復セント言フニ非ス又本案ニ對シ不明備ヲ鳴スニ非

ス實ニ此ノ如クナラサル可ラサル好修正ナリト思惟ス當時内閣委員ニシテ本案ノ明文ノ如ク官設ノ電線アラサル地ニ於テ一人又ハ兩人ノ用ニ供スル者ニ限り許可スルモノナリト答辨シタランニハ本官ハ其意義ヲ明備ナラシムルノ修正說ヲ提出スヘカリシニ内閣委員ノ答辨ノ充分ナラサル爲メニ遂ニ其說ヲ發セサリシ此事タル本院ニ於テ注意ノ到ラサルニ非ス委員ノ答辨前陳ノ如クナリシヲ以テ特ニ修正ヲ加ヘス議定上奏セシニ斯ク内閣ニ於テ修改シ以テ檢視ニ付セラルニ至リシハ甚タ遺憾ナリトス故ヲ以テ贅言ヲ顧ミス一辨スルコト爾リ

○議長 他ニ發議ナクハ決ヲ取ン本案ヲ明備ナリト認ムル者ハ起立セヨ

起立者三十九人

○議長 多數ナルヲ以テ本案ハ檢視ヲ經過セシ旨ヲ具シ例ニ遵ヒ上
奏セン

午前第九時五十五分閉會

元老院會議筆記明治十八年六月一日

禁傍聽

○第四百七十三號議案 政府紙幣第一第二及第三讀會

議長 東久世
通禧

出席議員

- | | | |
|-----|----|----|
| 二番 | 小畑 | 美稻 |
| 三番 | 箕作 | 麟祥 |
| 五番 | 青山 | 貞 |
| 八番 | 西 | 周 |
| 九番 | 三浦 | 安 |
| 十番 | 福原 | 實 |
| 十一番 | 長松 | 幹 |

十三番	西村 貞陽
十四番	大鳥 圭介
十五番	長岡 護美
十六番	伊丹 重賢
十七番	林 友幸
十八番	柴原 和
十九番	籠手田 安定
二十番	海江田 信義
二十四番	楫取 素彦
二十五番	何 禮之
二十六番	鍋島 幹

二十七番	壬生 基修
二十九番	大給 恒
三十番	安藤 則命
三十一番	上杉 茂憲
三十二番	官本 小一
三十四番	楠本 正隆
三十五番	細川 潤次郎
三十六番	榎村 正直
三十七番	神田 孝平
三十八番	岩村 定高
三十九番	大久保 一翁

内閣委員 番外 参事院員外議官補加藤 濟

四十番 渡邊 清

四十三番 伊集院兼寛

四十五番 河田 景與

四十六番 田邊 太一

五十一番 津田 眞道

五十二番 野村 素介

五十三番 黒田 清綱

五十四番 村田 保

五十五番 久我 通久

五十七番 永山 盛輝

同 番外 参事院議官補蒲生 仙

午前第九時五十分開場

○議長 第四百七十三號議案ノ第一讀會ヲ開ク

書記官 西山 眞平 朗讀

布告案

政府發行ノ紙幣ハ來明治十九年一月ヨリ漸次銀貨ニ交換シ其交換

シタル紙幣ハ之ヲ消却スヘシ

但交換ノ手續ハ大藏卿之ヲ定メ日本銀行ヲシテ其事務ヲ取扱ハ

シムヘシ

右奉 勅旨布告候事

○番外 二番 加藤 濟 本案制定ノ理由ヲ略陳セン抑モ大藏省ニ於テ紙幣交

換ノ事業ヲ經畫スルヤ此二年アリ今ヤ其經畫既ニ熟シ交換ヲ實施スル時期ニ達セリ故ニ其事由ヲ政府ニ上奏シ以テ本案ノ制定ヲ見ルニ至レリ今其要領ヲ概舉センニ本案ハ銀貨ト紙幣トノ間差ヲ救濟スルヲ主眼ト爲ス從來銀貨ト紙幣トノ時價昂低殊ニ甚キ爲メニ世間ノ困弊ヲ致シ今日既ニ極度ニ達セリ故ニ大藏省ハ漸次ニ紙幣ヲ消却シ以テ銀貨ヲ準備スルニ勉メリ紙幣ノ流通額ハ曾テ一億八千四百五十三萬一千五百八十四圓餘ニ上リシモ今ヤ九千三百三十八萬二百三十六圓餘ニ減シ之ニ對スル準備銀貨ハ四千萬圓ニ垂ントス是ヲ以テ之カ交換ヲ實施スルモ更ニ顧慮スル所無シ政府モ大藏省ノ上奏セル事由ヲ適當ナリト認メ以テ本案ヲ下付セリ各位此意ヲ領シテ速カニ議決センコトヲ望ム若シ夫レ質疑アラハ隨テ之

ニ答ヘン

○十八番 柴原和

本案ヲ賛成ス現在ノ流通紙幣九千三百餘萬圓ニ對シ凡四千萬弱ノ準備銀貨アラハ幾ント其半額ニ達スル者トス元來銀貨ト紙幣トノ時價ノ變動セルヨリシテ今日ノ困弊ヲ來シ物品ノ賣買ヲ外國ニ約スル如キ銀貨ノ昂低ノ爲メニ損失ヲ招クヤ常ニ大ナリ然ルニ今日流通紙幣ノ半額ニ達スル準備銀貨ヲ以テ之カ交換ヲ謀ラントスルハ實ニ抔喜ニ堪ヘス本官ハ準備銀貨ハ流通紙幣ノ三分ノ一ニシテ足ラント信ス人民苟モ政府ヲ信セハ何ソ其半額ヲ準備スルヲ要セン今日銀貨ノ低下セルハ兌換證券ヲ發行セル効力ニ職由ス四千萬圓ノ準備金ナルモ實際ニ交換ヲ請フハ或ハ五百萬圓ヲ出テサル可シ明治四五年ニハ人民ハ銀貨ヨリモ寧ロ紙幣ヲ好ミ

其六七年ニハ金貨ヨリモ紙幣ヲ喜フニ至レリ他無シ正貨ハ旅行等ノ携帶ニ不便ナルカ爲メニシテ人人打歩ヲ出スモ紙幣ヲ得ンコトヲ欲セリ實ニ五十圓ノ銀貨ヲ携帶スルモ旅行ニ不便ヲ感スルナリ故ニ人民苟モ政府ヲ信用セハ日常ノ賣買ニモ敢テ許多ノ交換ヲ請ハスシテ紙幣ノ便ニ就カンノミ舊幕府時代ノ諸藩ヲ觀ルニ各藩藩内ヲ限ル流通札ヲ發行セル有リ其藩士ノ參觀交代等ヲ爲スヤ一步他藩ノ領地ニ入レハ其札ノ通用セサル爲メニ金銀ノ實貨ニ交換セサルヲ得サルノ不便ヲ感セシモ今ヤ全國普通ノ紙幣ナレハ人民必ス信用シテ以テ之ヲ好マントス之ニ反シテ若シ悉皆此紙幣ヲ消却セハ人民却テ必ス不便ニ苦ム可シ故ニ本案ニ關シテハ交換準備ノ饒乏如何ヲ顧慮セス見在準備ノ四分ノ一ト雖モ仍ホ足レリト信ス

本案ヲ布カハ物價ニ激變ヲ見ルコト無ク人民各其堵ニ安ンスルニ至ル可キナリ

○十六番 伊丹重賢

本官モ喜テ本案ヲ贊成ス思フニ不換紙幣ノ弊害ヲ咎ムルハ今日ノ輿論ナリ故ニ本案ヲ發セハ帝ニ内國ノ工商業ニ幸福ヲ與フルノミナラス外國ノ貿易ニモ亦便利ヲ與フ可シ從來銀貨ノ時價ニ非常ノ亂高下ヲ見シハ畢竟投機者ノ所爲ニ出テシモ本案ニ賴リテ紙幣ト銀貨トノ時價其平均ヲ保タシメハ投機者アリト雖モ亦其術ヲ施スニ由シ無ク隨テ無賴ナル投機者モ自ラ正業ニ復セントス其利益果シテ如何ソヤ實ニ本案ハ萬民ニ福祉ヲ授クル者ト謂フ可シ

○五十四番 村田保

本案ニ關シテハ大藏卿ノ演說ト內閣委員ノ辨明ト

ヲ聞キ頗ル其理由ヲ明カニスルヲ得タレトモ仍ホ一二道ノ疑議ヲ
 存ス本案ニハ「政府發行ノ紙幣」ト言フ此ノ如ク政府發行ノ紙幣ト
 云ハハ爲メニ銀行紙幣ニ影響ヲ及ホサン譬ヘハ一人ノ銀行紙幣ヲ
 持シテ日本銀行ニ抵リ銀貨ニ交換セント求メンニ日本銀行ハ一昨
 年ノ布告ニ照シ必ス通用紙幣ヲ以テ交換セン然ルトキハ交換者ハ
 更ニ其通用紙幣ヲ把テ銀貨ニ交換セサル可ラス紙幣消却ノ一事モ
 見今大藏省時時布達シテ事ニ從ヘリ只先年太政官札三百五十萬圓
 ヲ八代洲河岸ニ燒棄セシ時ニハ特ニ布告ヲ發シタリ然ルモ今ヤ大
 藏省限リ消却スル者ハ復タ布告ヲ以テ公示セサルカ且ヤ交換シタ
 ル紙幣ト言フナレハ其然ヲサル紙幣ハ之ヲ消却セサルカ

○外番二番加藤

五十四番ニ答ヘン從來國立銀行紙幣ハ直ニ正金銀貨

ト交換セシムル制度ナリシモ明治八九年間紙幣ト正貨トノ間差漸
 ク甚シク爲メニ當初ノ制度ニ耐ユル能ハス因テ其制度ヲ改メテ通
 貨即チ政府紙幣ト交換スルニ定メリ然レトモ銀行紙幣ハ政府紙幣
 ト其効力ヲ同ウスル者ナルヲ以テ之カ爲メニ銀行紙幣ニ變動ヲ及
 スコト無シ況ヤ日本銀行ニハ銀貨銀券ヲ備フル有ルヲヤ交換ニ因
 テ日本銀行ニ收メタル紙幣ハ穴ヲ穿チ復タヒ使用スルヲ得サル廢
 紙幣ト爲シ以テ大藏省ニ上納セシメントス是ヲ以テ特ニ交換シタ
 ル紙幣ハ之ヲ消却スヘシトノ成文ヲ掲ケ以テ此事ヲ明示スルナ
 リ

○五十一番津田眞道

本官モ本案ヲ賛成ス蓋シ本官ハ本案ヲ看テ良法美
 制ト做セトモ亦必シモ其發布ヲ要セサル可シト信ス抑モ經濟學ノ

原則ニ據テ之ヲ言ヘハ紙幣ハ正貨ノ代表物ナレハ何時ヲ論セス交換セサル可ラス然ルニ我カ人民ノ政府ヲ信スルニ厚キ明治十年以前八九千三百九十萬圓ノ紙幣ニシテ其準備正貨ハ僅ニ二千萬圓ナリシモ猶ホ人民ハ官定ノ價格ニ從ヒ之ヲ受授セリ西南亂後紙幣二千七百萬圓ヲ増發シ之ニ加フルニ銀行紙幣三千萬圓ヲ以テシテ總額一億五六千萬圓ニ達シ而シテ之ニ對スル準備金ハ四五百萬圓ニ減セリ是ニ於テ紙幣ト銀貨トノ價格ニ間差ヲ生シ其極度タル一圓銀ハ紙幣一圓七八十錢ニ當ルニ至レリ是レ大藏省ニ準備金ノ匱乏ナルカ爲メナリ然ルニ十四年以來現大藏卿ノ其任ニ當ルヤ漸次ニ三千六百三十餘萬圓ノ紙幣ヲ減消シ以テ其準備正貨ヲ貯蓄シ銀貨紙幣ノ間差爲メニ減少スルヲ得タリ是ヲ以テ本案ヲ布カサルモ其

信用ヲ保ツハ灼トシテ火ヲ睹ルカ如シ我國人民ノ財力ハ一億二三千萬圓即チ一人四圓内外ヲ以テ適度ト爲ス若シ此額ヲ超過セハ其適度ニ非ス要スルニ今日能ク經濟ノ原則ニ據リ漸次ニ交換ヲ實行セハ特ニ本案ヲ布カサルモ可ナラン

○九番^{三浦安}

本案ヲ賛成ス本會ハ傍聽ヲ禁セシ者ナルヲ以テ秘事ヲ説クモ固ヨリ可ナリ大藏卿ノ言ニ依レハ本年末ニ至レハ準備金額ハ幾ント流通紙幣ノ半額ニ達ス可シト果シテ然ラハ本案ハ今日ニ布告シテ可ナリ思フニ太政官札ハ通用期限ヲ十三年ト爲セシモ現今ノ通用紙幣ハ所謂不換紙幣ニシテ通用年期ヲ立テサル者トス是ヲ以テ財政上ニ名狀ス可ラサル困難ヲ致セリ然ルニ今ヤ理財ノ經畫其宜キヲ得テ本案ヲ布クニ至リシハ抔喜ニ堪ヘス夫レ紙幣ニハ

二種ノ差別アリ即チ金銀貨ニ代用スル便利紙幣ト政府ノ貧困ヲ纏
 縫スル逋債紙幣是レナリ使用紙幣ハ金銀貨ニ對シテ間差ヲ生セサ
 レトモ逋債紙幣ハ其性質本ト不換ノ者ナルヲ以テ必ス金銀貨ニ對
 シテ間差ヲ生スルヲ免レス今ヤ本案ハ現在ノ逋債紙幣ヲ改メテ便
 利紙幣ト爲ス者ナリ此ノ如クンハ商工業ニ大變動ヲ見ル無クシテ
 方向一定シ天下經綸ノ基本此ニ立ツ豈ニ喜フ可キニ非スヤ按スル
 ニ本邦ハ後醍醐天皇ノ朝ニ當リ曾テ紙幣ニ類似セル者ヲ發行シタ
 ルモ其弊ニ耐エスシテ建武ノ政權終ニ武人ノ手ニ落チ王政ノ維新
 ヲ果タス能ハサリシ明治維新以後モ使用紙幣ニ非サル逋債紙幣ヲ
 發行シ爾後之ヲ交換セシモ猶ホ逋債紙幣ヲ以テ逋債紙幣ニ交換セ
 シノミ即チ唯其紙質體制ヲ異ニセルニ止マル是ヲ以テ人皆其弊害

ノ底止スル所ヲ知ラサルヲ憂慮セシニ今日此ノ如ク明明赫赫タル
 法案ヲ見ルヲ得タリ其レ然リ一ノ疑點タモ無キ法案ナレハ速カニ
 第二三讀會ヲ連開シテ議決上奏センコトヲ建議ス

○五十四番村田保更ニ前質問ヲ重子シ銀行紙幣ヲ持シテ其交換ヲ日

本銀行ニ求メハ日本銀行ハ政府紙幣ト交換ス可シト信セシニ内閣
 委員ハ銀貨銀券ヲ備フル有ルヲ以テ交換ニ支障セスト答ヘリ本官
 其答辨ノ意旨ヲ解スル能ハス消却ノ一事モ交換シタル者ハ切斷ス
 ト云フノミニシテハ不備ノ答辨ト爲ス請フ明解ヲ與ヘヨ

○番二番加藤濟五十四番ノ質問ハ銀行紙幣ヲ持シテ日本銀行ニ交換

ヲ求ムル者ヲ云フカ而シテ其事情ハ如何ナル場合ニ在ルカ質問其
 要領ヲ得ル能ハス更ニ一回ノ明辨ヲ請フ

○五十四番村田保 明治十六年五月五日第十四號布告第四十九條ニ

「此條例ヲ遵奉シテ創立シタル銀行ヨリ發行スル所ノ銀行紙幣ヲ通貨ト引換ヘンコトヲ請求スルモノアルトキハ日本銀行ニ於テ之ヲ引換フヘシ」ト言ヘリ本官ノ問フ所ハ即チ此布告ニ基キ交換ヲ願出ル場合ノ措置ニ在ルナリ

○番二番加藤濟

領會ス質問ノ如ク銀行條例ニハ其明文アルモ是レ空文ニシテ經驗上今日ニ至ルマテ未タ曾テ交換ヲ請フ者アラス蓋シ政府紙幣ト銀行紙幣ト其時價ニ間差ヲ生セサルニ由レリ元來第四十九條ノ明文ヲ掲ケタルハ銀行紙幣ハ當初正貨ニ交換スル制度ナリシニ爾後正貨ト通貨トノ時價ニ間差ヲ生シ銀行者流其負擔ニ耐エサル爲メニ此制度ヲ改メタリ故ヲ以テ銀行紙幣モ政府紙幣モ其

不換ナルニ拘ラス體面上此虛文ヲ掲ケタルノミ且今本案ヲ發スレハ兩紙幣並行スルナレハ決シテ實際上ニ間差ヲ生スル無シ且此交換ハ日本銀行ニ委任スルヲ以テ毫モ顧慮ヲ要セス銀行紙幣モ年限ニ至レハ之ヲ收銷スルナリ又消却ノ一事ハ政府ノ金庫ニ入ル者ハ四百萬ナリ五百萬圓ナリ其場合ニ應シ之ヲ消却スレトモ亦然スル能ハサル場合アルヲ保セス之ニ反シテ交換ニ因テ日本銀行ヨリ大藏省ニ上納スル紙幣ハ悉皆消却スル精神ナルヲ以テ特ニ之ヲ明示スルノミ

○三十五番細川潤次郎

本案ヲ賛成ス主義辭句共ニ一ノ間然ス可キ無シ但シ本案ニ因テ生スル結果ヲ按スルニ内閣委員ハ本案ヲ發スルハ今日ヲ其時機ト爲スト云ヒ某議官ハ本案ヲ今日ニ布クハ既ニ其時

機ノ遅キヲ感スル如キ言ヲ發セリ本官敢テ其當否ヲ知ラサレトモ今日地方人民ノ慘狀ハ實ニ言フ可ラス向キニ紙幣銀貨ノ變動ヨリ一時活潑ノ景況ヲ現セシモ本案ノ爲メニ此變動ヲ抑止シ隨テ物價低下スレハ貯藏ノ貨物ハ其損失ヲ招クヤ必セリ元來本案ノ主義ハ善美ナルモ人民ノ財計ニ影響スルハ亦深ク考察セサル可ラス即チ物價ハ銀貨交換ニ因テ低下スルハ必然ナレハナリ故ニ民間ノ慘狀ハ一層ノ甚キヲ加フルヤト知ス可シ要スルニ本案ハ寒ニ衣ヲ望ミ飢ニ食ヲ欲スルト一般ノ良法ナレトモ人民ノ慘狀ハ銀貨ト紙幣トノ間差ニ生シタル者ナレハ此交換モ亦自ラ時機ノ在ル有ラン準備金ニシテ苟モ裕饒ナラハ何時ニ交換ヲ始ムルモ可ナレトモ其緩急ハ亦熟ク之ヲ量ラサル可ラス若シ外國又ハ内國ニ事變起發シ海外

ニ物品ヲ購求スル如キ有ラハ必ス銀貨ヲ以テセサル可ラス故ニ需用供給ニ關スル經濟上ノ常理ヨリシテ其時機ニハ銀貨ハ必ス騰貴セントス然ルトキハ又復タ紙幣ヲ増發スルカ若クハ民間ノ銀貨ヲ搜求センノミ故ニ本官ハ獨リ事變ノ起發スル無キヲ望ムナリ聊カ杞憂ヲ陳ス

○五十四番 村田保 尙ホ質問セン明治十年第八十七號布告ニ半圓貳拾

錢拾錢ノ紙幣貳千七百拾萬餘圓ハ明治十一年ヨリ明治二十五年マテニ補助銀銅貨ヲ以テ交換シ其紙幣ハ截斷ニ付シ時時布告ス可キヲ言ヘリ此半圓貳拾錢拾錢ノ紙幣モ亦本案ノ消却ノ部分ニ在リヤ

退席

二十番

海江田信義

○外番 加藤 見今五拾錢以下ノ小紙幣ノ流通額ハ一千七百餘萬圓

ニ過キス此小紙幣ハ悉ク銀銅貨ヲ以テ之ヲ交換セントス大坂造幣局ハ勉以テ小銀貨ヲ鑄造スレトモ一月間ニ五十萬圓ヲ超ル能ハサルカ故ニ一朝ニ其交換ヲ果スヲ得ス又若シ之ヲ交換スルニ一圓銀貨ヲ以テスルトキハ目下ノ流通ニ支障ヲ生セン故ニ是等ハ漸ヲ逐フテ交換セントス

○五十四番村田保 本官ノ問意ハ番外二番ニ徹底セサルニ似タリ明治十年ノ布告ニハ交換紙幣ノ截斷ヲ時時布告スト言ヘハ本案ヲ發スルモ猶ホ半圓以下ノ紙幣ノ消却ハ時時布告セサル可ラサラン
○番二加藤濟 五十四番ノ問フ所ハ參事院ニ於テモ討論セシカ終ニ本案ノ發布ト共ニ明治十年第八十七號布告ハ自然ニ消滅スト云フニ決セリ是レ自然ノ理勢ナリ且彼ノ布告ハ今日マテ實際ニ施行セ

サル者ナリ

○十八番柴原和 既ニ本會ノ終リニ臨メリト信ス本官ハ九番ノ建議ト同感ナレハ内閣委員ノ請求ヲ待タス速ニ議決センコトヲ望ム
○議長 第一讀會ヲ終ル九番ノ建議ニ同意スル者ハ起立セヨ

起立者三十三人

○議長 多數ナルヲ以テ九番ノ建議ニ決シ直ニ第二讀會ヲ開ク

書記官西山眞平 朗讀

布告案

政府發行ノ紙幣ハ來明治十九年一月ヨリ漸次銀貨ニ交換シ其交換シタル紙幣ハ之ヲ消却スヘシ

但交換ノ手續ハ大藏卿之ヲ定メ日本銀行ヲシテ其事務ヲ取扱ハ

シムヘシ

右奉 勅旨布告候事

○議長 本案ヲ可トスル者ハ起立セヨ

議員起立

○議長 全會一致ナルヲ以テ本案ニ決シ第二讀會ヲ終リ更ニ第三讀會ヲ開ク朗讀ハ之ヲ略ス

○議長 本案ヲ可トスル者ハ起立セヨ

議員起立

○議長 全會一致ナルヲ以テ本案ニ決シ第三讀會ヲ終ル議決ノ次第ハ例ニ沿ヒ上奏セン散會セヨ

午前第十一時十分閉場

元老院會議筆記 明治十八年六月十五日

○第四百七十四號議案 佛蘭西國巴里府ニ於テ海底電信第一讀會線保護萬國聯合條約ニ加入ノ儀

議長 東久世 通禧

出席議員

- | | |
|-----|-------|
| 二番 | 小畑 美稻 |
| 三番 | 箕作 麟祥 |
| 六番 | 津田 出 |
| 八番 | 西 周 |
| 九番 | 三浦 安 |
| 十番 | 福原 實 |
| 十一番 | 長松 幹 |

十三番 西村 貞陽

十四番 大鳥 圭介

十五番 長岡 護美

十六番 伊丹 重賢

十七番 林 友幸

十八番 柴原 和

十九番 籠手田 安定

二十番 海江田 信義

二十二番 稅所 篤

二十三番 鍋島 直彬

二十四番 楫取 素彦

二十五番 何 禮之

二十六番 鍋島 幹

二十七番 壬生 基修

二十八番 神山 郡廉

二十九番 大給 恒

三十番 安藤 則命

三十一番 上杉 茂憲

三十二番 宮本 小一

三十三番 橋口 兼三

三十五番 細川潤次郎

三十六番 榎村 正直

- 三十七番 神田 孝平
- 三十九番 大久保一翁
- 四十番 渡邊 清
- 四十一番 町田 久成
- 四十三番 伊集院兼寛
- 四十四番 由利 公正
- 四十五番 河田 景與
- 四十六番 田邊 太一
- 五十一番 津田 眞道
- 五十四番 村田 保
- 五十五番 久我 通久

五十七番 永山 盛輝

内閣委員 一番外 参事院議官 高崎 五六
二番外 同 参事院議官補 黒田 綱彦

午前第九時三十五分開場

○議長 本日ハ第四百七十四號及ヒ第四百七十五號兩議案ノ第一讀會ヲ開ク先ツ第四百七十四號議案ヲ議題ニ付ス其條數頗ル多キヲ以テ朗讀ハ布告案ニ止ム

書記官 西山 眞平 朗讀

布告案

明治十七年四月佛蘭西國巴里府ニ於テ別冊萬國海底電信線保護聯合條約ニ加入ス

右奉 勅旨布告候事

左案ハ議場ニ朗讀セサリシモ參觀ニ便スル爲メニ之ヲ附記ス
千八百八十四年三月十四日巴里府ニ於テ各國ノ全權調印シタル
萬國海底電信線保護條約譯文

條約書

佛蘭西共和政府大統領閣下普魯西兼獨逸皇帝陛下亞爾惹丁聯邦大
統領閣下澳地利兼洪牙利皇帝陛下白耳義皇帝陛下伯西爾皇帝陛下
哥斯太利加共和政府大統領閣下丁抹皇帝陛下度美尼哥共和政府大
統領閣下西班牙皇帝陛下北米合衆國大統領閣下哥倫比亞合衆國大
統領閣下大不列顛愛爾蘭兼印度皇帝陛下牙德麻刺共和政府大統領
閣下希臘皇帝陛下伊太利皇帝陛下土耳其皇帝陛下荷蘭兼盧森堡皇

帝陛下波斯皇帝陛下葡萄牙亞爾珈揮皇帝陛下羅瑪尼皇帝陛下全露
西亞皇帝陛下薩爾波度兒共和政府大統領閣下攝兒比亞皇帝陛下瑞
典兼諾威皇帝陛下烏拉藝東部共和政府大統領閣下ハ海底線ヲ經過
スル電氣通信ヲ保護スルコトヲ冀望シ夫レカ爲メニ條約ヲ締結セ
ント欲シ各其全權委員トシテ左ノ人々ヲ任命ス

佛蘭西共和政府大統領閣下ハ內閣議長兼外務卿代議士ジユール、
フエリー氏及驛遞電信卿代議士アドルフ、コシユリー氏

普魯西兼獨逸皇帝陛下ハ佛國政府ニ駐劄スル同陛下ノ特命全權大
使巴巴里亞皇帝侍從長フランス、ラチポール、エ、コルウエー、プラ
ン、クロウ井、シャル、ウイクトール、ド、ホーヘンロツフ、シルリン、
ヒユルスト殿下

亞爾惹丁聯邦大統領閣下ハ巴里府ニ駐劄スル亞爾惹丁特命全權公使バルカルス氏

澳地利兼洪牙利皇帝陛下ハ佛國政府ニ駐劄スル同陛下ノ特命全權大使内閣顧問コント、ラジスラ、ホヨ閣下

白耳義皇帝陛下ハ巴里府ニ駐劄スル同陛下ノ特命全權公使バロン、ペイヤン氏及白耳義外務省政務局長兼特派全權委員レオポール、オルバン氏

伯西爾皇帝陛下ハ巴里府ニ駐劄スル伯西爾代理公使バロン、ヂタジユバ、ダロー、シヨ氏

哥斯太利加共和政府大統領閣下ハ在巴里府哥斯太利加公使館書記官レオン、ソンゼエー氏

丁抹皇帝陛下ハ巴里府ニ駐劄スル同陛下ノ特命全權公使コント、ド、モルトケ、ウ井ツトヘル氏

度美尼哥共和政府大統領閣下ハ巴里府ニ駐劄スル度美尼哥國全權公使バロン、ド、アルメダ氏

西班牙皇帝陛下ハ佛國政府ニ駐劄スル同陛下ノ特命全權大使西班牙學士會員元老院終身議官マニユエル、シルヴェラ、ド、ル、ウ井、ヨーズ閣下

北米合衆國大統領閣下ハ巴里府ニ駐劄スル北米合衆國特命全權公使エル、ペー、モルトン氏及同公使館書記官ウ井ギョー氏

哥倫比亞合衆國大統領閣下ハ巴里府ニ駐劄スル哥倫比亞總領事ドクトル、シヨゼ、シエートリアナ氏

大不列顛愛爾蘭兼印度皇帝陛下ハ佛國政府ニ駐劄スル同陛下ノ特命全權大使樞密院議官大不列顛及愛爾蘭統一國貴族院議員ウヰンセント、リヨン、トレー、オノラーブル、リシヤルド、ピケルトン、ペーメル閣下

牙德麻刺共和政府大統領閣下ハ巴里府ニ駐劄スル牙德麻刺國特命全權公使クリザント、メシナ氏

希臘皇帝陛下ハ巴里府ニ駐劄スル同陛下ノ特命全權公使フランス、モーロコルダト氏

伊太利皇帝陛下ハ佛國政府ニ駐劄スル同陛下ノ特命全權大使マルキー、ド、ヴァルドラ將官、コント、メナブレア閣下

土耳其皇帝陛下ハ佛國政府ニ駐劄スル同陛下ノ特命全權大使エツ

サー、バシヤ閣下

荷蘭兼盧森堡皇帝陛下ハ巴里府ニ駐劄スル同陛下ノ特命全權公使バロン、ド、ジュイラン、ド、ニエヴエル氏

波斯皇帝陛下ハ巴里府ニ駐劄スル同陛下ノ特命全權公使將官ナザル、アガ氏

葡萄牙亞爾珈揮皇帝陛下ハ巴里府ニ駐劄スル葡萄牙代理公使ダゼウエド氏

羅馬尼皇帝陛下ハ巴里府ニ駐劄スル羅馬尼代理公使オドベスコ氏
全露西亞皇帝陛下ハ佛國政府ニ駐劄スル同陛下ノ特命全權大使參謀將官フランス、ニコラ、オルロフ閣下

薩爾波度兒共和政府大統領閣下ハ巴里府ニ駐劄スル薩爾波度兒特

命全權公使トレー、カイセド氏

攝兒比亞皇帝陛下ハ巴里府ニ駐劄スル同陛下ノ特命全權公使マリ
ノヅ井ツク氏

瑞典兼諾威皇帝陛下ハ巴里府ニ駐劄スル同陛下ノ特命全權公使シ
ベル氏

烏拉藝東部共和政府大統領閣下ハ巴里府ニ駐劄スル烏拉藝特命全
權公使陸軍大佐シアツ氏

右ノ全權委員ハ互ニ其委任狀ヲ示シ善良正當ト認メタルニ因リ左
ノ數條ヲ約定ス

第一條

此條約ハ諸政府ノ管領海中ニアルモノヲ除クノ外都テ法律ニ依テ

布設シ且條約國ノ内一國若クハ數國ノ領地殖民地又ハ屬地ニ陸揚
シタル海底電信線ニ適施スルモノトス

第二條

故意ト疎虞懈怠トヲ問ハス海底電信線ヲ切斷又ハ破損シ因テ電氣
通信ノ全部又ハ一部ヲ妨害シ若クハ不通ニ致シタルトキハ之ヲ罰
スヘキモノトス但損害要償ノ爲メ私訴ヲ起スモ妨ケナカルヘシ
海底電信線ノ切斷又ハ破損ヲ避クル爲メ精々注意ヲ加フルモ自己
ノ生命或ハ船體ノ安寧ヲ保護スル正當ノ目的ニテ已ムヲ得ス其切
斷又ハ破損ヲ爲シタルトキハ此條款ヲ適用セサルモノトス

第三條

條約國政府其領地ニ海底電信線ノ陸揚ヲ許可スルトキハ成ルヘク

タケ電信線布設ノ位置及該線ノ大小長短ニ關シ電信線ノ安全ヲ保ツカ爲メニ適當ナル條件ヲ定ムルコトヲ約ス

第四條

一ノ海底電信線ヲ所有シタル者其線ヲ布設シ或ハ之ヲ修繕スル際他ノ海底電信線ヲ破損又ハ切斷スルトキハ其切斷又ハ破損ノ修繕ニ必要ナル費用ヲ負擔スヘシ但場合ニヨリ此條約第二條ヲ適施スルモ妨ケナカルヘシ

第五條

海底電信線ノ布設又ハ修繕ニ從事スル船舶ハ他ノ船舶トノ衝突ヲ豫防スル爲メ條約國政府協議ノ上已ニ制定シ或ハ向後制定スヘキ信號規則ヲ遵奉スヘシ

海底電信線ノ修繕ニ從事スル船舶右信號ヲ掲クルトキハ之ヲ認メ又ハ認メ得ヘキ地位ニアル他ノ船舶ハ其修繕ノ工事ヲ妨ケサル爲メ少クモ右船舶ヨリ一海里ノ距離ニ退キ若クハ遠サカルヘシ
漁人網又ハ漁具ヲ投スルモ亦同一ノ距離ニ於テスヘシ
然レトモ右信號ヲ掲ケタル電信船ヲ認メ又ハ認得ヘキ地位ニアル漁船ハ其信號ノ命ニ從フニ付二十四時以内ノ猶豫ヲ有スヘシ右時間中ハ其漁船ノ運轉ニ妨害ヲ加フヘカラス
電信船ハ成ルヘク速ニ其工事ヲ終ルヘシ

第六條

海底電信線ヲ布設スルトキ若クハ切斷破損セシトキ海底電信線ノ位置ヲ示ス爲メニ設ケタル浮標ヲ望見シ又ハ望見シ得ヘキ地位ニ

居ル船舶ハ少クモ其浮標ヨリ海里四分之一ノ距離ニ遠サカルヘシ
漁人網又ハ漁具ヲ投スルモ亦同一ノ距離ニ於テスヘシ

第七條

凡船舶ノ所有者海底電信線ニ損害ヲ加ヘサル爲メニ錨或ハ網又ハ
其他ノ漁具ヲ失ヒタルコトヲ證明スルトキハ海底電信線ノ所有者
ヨリ其賠償ヲ爲スヘシ
其賠償ヲ得ント欲セハ其損失ノ後之ヲ證明スル爲メ乗組人ノ證言
ヲ添ヘタル調書ヲ成ルヘク速ニ作ルコトヲ要ス且其船長ハ右事件
アリシ後初テ立寄り又ハ歸着シタル港ニ於テ其着船ヨリ二十四時
内ニ之ヲ其掛官署ニ届出ルコトヲ要ス此掛官署ハ之ヲ其海底電信
線所有者ノ所屬國領事廳ニ報告スヘシ

第八條

此條約ヲ犯ス罪ヲ審判スルニ付テノ管轄裁判所ハ違犯船ノ所屬國
ノ裁判所ヲ以テ相當ノモノトス
然レトモ前項ノ如ク實施スルコト能ハサルトキ此條約ヲ犯ス罪ヲ
罰スルニハ條約國各自ノ法律又ハ萬國條約ニ基キ定メタル刑事裁
判管轄ノ總則ニ從テ各其國民ノミヲ處分スヘキモノトス

第九條

此條約第二條第五條及第六條ニ記載シタル犯罪ノ起訴ハ各國ノ政
府自ラ之ヲ行フカ又ハ政府ノ名ヲ以テ之ヲ行フヘシ

第十條

此條約ヲ犯ス罪ハ都テ之ヲ裁判スヘキ裁判所所在國ノ法律ニ於テ

許ス所ノ證據法ヲ以テ之ヲ證明スルコトヲ得
 軍艦ノ司令官又ハ條約國ノ内一國ヨリ特ニ犯罪審査ノ爲メニ派遣
 シタル船舶ノ司令官ニ於テ軍艦ニ非サル船舶此條約ヲ犯ス罪ヲ行
 ヒタルト思量スルトキハ其船長或ハ船主ニ該船所屬ノ國名ヲ證明
 スヘキ公書ヲ見ント要求スルコトヲ得又其司令官ハ此公書ヲ閱覽
 シタル旨ヲ直チニ其示サレタル書中ニ附記スヘシ
 且該官ハ犯罪船ノ何國ニ屬スルヲ問ハス調書ヲ作ルコトヲ得此調
 書ハ該官ノ所屬國ニ於テ使用スル語ヲ以テ其國ニ行ハル、定式ニ
 從フテ之ヲ記スヘシ又此調書ハ之ヲ引用スヘキ國ニ於テ其法律ニ
 從ヒ證據トスルコトヲ得被告人及證人ハ各自ノ國語ヲ以テ要用ト
 思惟スル説明ヲ調書ニ加記シ或ハ之ヲ加記セシムルノ權アリ此加

記ニハ法ニ依テ手署スヘキモノトス

第十一條

此條約違犯ノ審理及判決ハ現行ノ法律規則ニ許ス所ノ略式ヲ以テ
 施行スヘシ

第十二條

條約國政府ハ此條約ノ施行ヲ確實ナラシメン爲メ就中此條約第二
 條第五條及第六條ノ條款ヲ犯シタル者ヲ禁錮若クハ罰金或ハ此ニ
 刑ヲ以テ罰スル爲メ必要ノ條規ヲ定メ又ハ其議案ヲ立法官ニ提出
 スルコトヲ約ス

第十三條

條約國政府ハ此條約ノ目的ニ基キ各其本國ニ於テ已ニ布告シ又ハ

向後布告スヘキ法律ヲ互ニ報告スヘシ

第十四條

此條約ニ同盟セサル國ト雖トモ請求スルニ於テハ同盟ニ加入スルコトヲ得其加入ハ外交上ノ手續ニ依テ佛蘭西共和政府ニ報告シ該政府ハ之ヲ各同盟政府ニ通牒スヘシ

第十五條

此條約ノ條款ハ開戰國自由働作ノ權ニ少シモ妨碍ヲ加フヘカラサルモノトス

第十六條

此條約ハ條約國政府ニ於テ向後協議約定スヘキ日ヨリ之ヲ實施スヘシ

此條約ハ其日ヨリ五ケ年間之ヲ施行スヘシ而テ各條約國ノ内一國ニテモ五ケ年ノ期限ノ終ル十二ヶ月前ニ於テ此條約ノ効力ヲ廢止スル旨ヲ通知セサルニ於テハ此條約ハ引續キ一ケ年間之ヲ施行スヘシ其後モ亦此ノ如ク一ケ年ヲ以テ一期トシテ施行スヘキモノトス

條約國ノ内一國ヨリ此條約ヲ拋棄スル旨ヲ通知スルトキハ其拋棄ハ唯其政府ニ對シテノミ効アルモノトス

第十七條

此條約ハ各政府之ヲ批准スルコトヲ要ス此批准ハ巴里府ニ於テ成ルヘク速ニ之ヲ交換スヘシ尤モ遅クモ一ケ年内ニハ全ク交換ヲ終ルヘキモノトス

右ノ條々ヲ確證スル爲メ各國ノ全權委員各茲ニ手記捺印ス

千八百八十四年三月十四日巴里府ニ於テ各條約書二十六通ヲ作ル

手記捺印

ジュール、フエリ

ア、コシユリ

ホーヘンロツフ

エム、バルカルス

ラジスラ、コント、ホヨ

ベイヤン

レオポール、オルバン

パロン、ヂタシユバ

レオン、ソンゼエ

全 全 全 全 全 全 全 全 全 全 全

エマニユエル、ド、アルメタ

モルトケ、ウ井ツトヘル

マニユエル、シルヴエラ

エル、ペー、モルトン

ヘンリー、ウ井ギヨ

シヨゼ、シエー、トリアナ

リヨン

クリザント、メシナ

モーロコルダト

エル、エル、メナブレア

エツサ

全 全 全 全 全 全 全 全 全 全 全

パロシ、ド、ジユイランド、ニエヴエル	全
ナザル、アガ	全
エフ、ダゼウエド	全
オドベスコ	全
フランス、オルロフ	全
ジ―、エム、トレ―、カイセド	全
ジ―、マリノヴ非ツク	全
ジエ―、シベル	全
ジユアン、ジ―、シアツ	全

追加條約

海底電信線保護ノ爲メ本日締約シタル條約ノ諸條款ハ第一條ノ明

文ニ基キ不列顛皇帝陛下ノ領スル殖民地及屬國ニ之ヲ適施スルモノトス但左ニ記載シタルモノハ此限ニアラス

- 一 加那太
- 一 テール、ヌープ
- 一 喜望峯
- 一 那多兒
- 一 新、南、珈斯
- 一 維太利
- 一 公斯蘭
- 一 太斯馬尼
- 一 南豪斯太利

一 西豪斯太利

一 新西蘭度

然レトモ若シ巴里駐劄不列顛皇帝陛下ノ公使ヨリ佛國外務卿へ前記殖民地或ハ屬國ノ名ヲ以テ條約ニ加入スル旨ヲ通知スルトキハ該國ニ限リ本條約ノ諸條款ヲ適施スルモノトス

此ノ如クニシテ本條約ニ加入シタル前記ノ殖民地或ハ屬國ハ條約國ト同一ノ方法ニ依テ退盟スルコトヲ得若シ其殖民地又ハ屬國中ノ一ニ於テ退盟セントスルトキハ巴里駐劄不列顛皇帝陛下ノ公使ヨリ佛國外務卿へ其旨ヲ通牒スヘシ

千八百八十四年三月十四日巴里府ニ於テ追加條約二十六通ヲ作ル

ジュール、フェリー

手記

ア、コシユリー

全

ホトヘンロツフ

全

エム、バルカルス

全

ラジストラ、コント、ホヨ

全

ベイヤン

全

レオポール、オルバン

全

パロン、ヂタジュバ

全

レオン、ソンゼエ

全

モルトケ、ウ井ツトヘル

全

エマニユエル、ド、アルメダ

全

マニユエル、シユルヴエラ

全

エル、ペー、モルトン	全
ヘンリー、ウ井ギヨ	全
シヨゼ、シエー、トリアナ	全
リヨン	全
クリザント、メシナ	全
モーロコルダト	全
エル、エル、メナブレア	全
エツサ	全
バロンド、ジュイランド、ニエヴエル	全
ナザル、アガ	全
エフ、ダゼウエド	全

オドベスコ	全
フランス、オルロフ	全
ジ、エム、トレ、カイセド	全
ジ、マリノヴ井ツク	全
シエー、シベル	全
ジュアン、ジ、シアツ	全

○外番二番 黒田 網彦 本案ハ昨年以來佛蘭西國巴里府ニ開キシ萬國海底電

信線保護聯合條約ノ會議ニ於テ約定シタル者ニシテ本邦ニ於テハ
派駐公使ニ委任シ條約第十四條ニ據テ加盟セシナリ他ニ理由ノ陳
ス可キ無シ冀クハ速カニ議定上奏センコトヲ

○三番 箕作 麟祥 本案ハ番外二番ノ陳辨セシ如ク既ニ條約ニ加盟セシ後

ナレハ今日ニ於テ其可否ヲ論ス可キニ非ス又其廢棄ヲ唱へ及ヒ修正ヲ加フ可キニ非ス唯其原文ノ意義ト齟齬スル無レハ足ルノミ本官ハ幸ニ此條約書ノ原文ヲ得タルニ因リ本案ト對照セシニ間マ明瞭ヲ缺ケル有ルヲ發見シタルヲ以テ今其大要ヲ陳シ各官ノ參考ニ供セン第四條ニ「一ノ海底電信線ヲ所有シタル者」ト言ヘリ是レ敢テ明瞭ヲ缺クト云フニハ非サレトモ宜ク他條ノ例ニ倣ヒ「一ノ海底電信線ノ所有者」ト爲スヘキカ如シ原文ハ同一ナルニ譯文ノ殊異ナルハ穩妥ナラサルニ似タリ加フルニ「所有シタル者」ト言フハ過去詞ノ如キ看ヲ爲スヲ免レサル可シ第七條第二項ニ「其損失ノ後之ヲ證明スル爲メ」ト言フモ原文ニ據レハ「後」ト「之」ヲトノ間ニ「直チニ」ノ文字ヲ入ル可キニ似タリ又「成ルヘク速ニ作ルコトヲ要

ス」ト言フモ原文ニハ「速ニ」ノ文字ヲ見ス「成ルヘクタケ作ルコトヲ要ス」ト云フノ意義ナリ第八條初項ニ「違犯船ノ所屬國ノ裁判所ヲ以テ相當ノモノトス」ト言フモ原文ニ據レハ「ヲ以テ相當ノモノ」ノ八字ハ冗文ニ屬ス宜ク「違犯船ノ所屬國ノ裁判所トス」ト爲スヘキニ似タリ第十條第二項ニ「其船長或ハ船主ニ」ト言フモ原文ニハ「其〔カピテン〕或ハ〔バトロン〕」ト言ヘリ「カピテン」ハ大船ノ指揮者ニシテ「バトロン」ハ小船ノ指揮者ナルニ若シ本案ノ如ク「バトロン」ヲ譯シテ船主ト爲ストキハ其船ノ所有主タルヤノ嫌ヒ有リ寧ロ俚俗ナルモ船頭ト云フ如キ文字ヲ用ルヲ妥當ナリトス第十一條ニ「現行ノ法律規則ニ許ス所ノ略式ヲ以テ施行スヘシ」ト言フモ原文ノ意義ハ「現行ノ法律規則ニ觸レサルタケハ成ルヘクタケ簡略ニ施行

スヘシト言フニ在リ本案ノ如クナレハ略式ヲ以テ施行スヘシト
 スル命令詞ト爲リテ原意ト相合ハサルニ似タリ第十五條ニ「開戰
 國」ト言フハ「ベルリセント」ナル文字ヲ譯セル者ニシテ萬國公法ニ
 モ交戰國ノ文字ヲ用ヒ近來新聞記者等モ亦同ク交戰國ノ文字ヲ用
 フ原案ノ如ク開戰國ト言ヘハ新タニ戰端ヲ開ク國ヲ指スニ似タリ
 故ニ交戰國ニ改ムルヲ妥當ナリトス第十六條末項ニ「唯其政府ニ
 對シテノミ」ト言フモ原文ニハ政府ノ文字ヲ見ス前行ノ「條約國ノ
 内一國ヨリ」ト言ヘル「國」ノ字ヲ承ケテ「唯彼レニ對シテノミ」ト言
 ヘリ「彼レ」ハ「一國」ヲ指セルナレハ之ニ「政府」ノ文字ヲ當ツルハ甚
 タ穩妥ナラス第十七條ニ「之ヲ交換スヘシ尤モ遅クモ」ト言ヘリ「尤
 モ」ノ文字ハ書翰等ニ用ルハ妨ケ無キモ法律文ニ用ルハ穩妥ナラ

サルカ如シ原文ニモ斯ノ如キノ文字ヲ見サレハ「之ヲ交換シ遅ク
 モ」ト爲スヲ穩妥ナリトス又追加條約ノ初項ニ「不列顛皇帝陛下ノ
 領スル殖民地及屬國ニ之ヲ適~~ル~~スルモノトス」ト言ヘリ「屬國」ノ文
 字ハ條約第一條ニ「屬地」ト言ヘルト同ク「ホッセツシヨン」ナル文字
 ヲ譯セシ者ナレハ條約第一條ト同ク屬地ト爲スヲ穩妥ナリトス第
 二項第三項等ノ屬地ノ文字モ亦同シ第二項ノ「該國」ト言ヘルハ原
 案ノ如クナレハ佛國ヲ指スカ不列顛ヲ指スカ將タ上文ノ屬國ノ文
 字ヲ承ルカ甚タ明瞭ヲ缺クニ似タリ原文ニハ「該殖民地或ハ屬地」
 ト言ヘハ「該國」ノ文字ヲ用ルハ當安ナラス以上ハ唯是レ本官ノ概
 閱ニ得タル所ヲ述フニ過キス尙ホ詳密ニ調査セハ許多ノ誤譯ヲ檢
 出スルモ知ル可ラス到底原文ニハ修正ヲ加ル能ハサルモ譯文ヲ以

テ布告シ日本帝國ノ法律ト爲ス以上ハ翻譯ニ誤謬ヲ留ムルハ甚ダ失體ナリトス因テ本官ハ全部付託修正委員ヲ置クコトヲ建議ス幸ニ番外二番ハ佛蘭西學ヲ修メシ人ナレハ委員諸君モ之ト協議シ完備ナル修正ヲ爲サンコトヲ望ム且本案ハ素ヨリ至急ヲ要スル者ニ非ス假令ヒ至急ヲ要スルモ誤謬ヲ知リテ之ヲ訂正セス以テ本院ノ議場ヲ通過セシムルハ本官等ノ屑シトセサル所ナリ請フ幸ニ本會ノ終リニ當リ全部付託修正委員ヲ撰定センコトヲ

○十八番柴原和

本官ハ本案ヲ賛成シ第二第三讀會ヲモ連開シテ可ナラント思惟シ誤譯等ハ之レ無キコトヲ確信シ以テ檢視案ト同一ノ看ヲ爲セシニ只今三番ノ言ヲ聞クニ及ヒ一理ニ當ルカ如ク殊ニ第十條ノ「船主」ノ文字ノ如キハ字句ノミニ止ラスシテ大ヒニ意義

ニ關係スル者ノ如シ本官ハ船主ノ文字ヲ解シテ其船ノ所有者ナリト爲セシニ三番ノ言ヲ聞キテ其船頭ナルヲ知ルヲ得タリ幸ニシテ本院ノ議定ニ付セラレタルナレハ充分ニ修正ヲ加フルヲ得ヘキヲ以テ内閣委員及ヒ主務官吏ト協議シ適當ノ修正ヲ加ヘ而ル後ニ第二讀會ヲ開カンコトヲ望ム三番ノ如キ一讀シテスヲ斯ク許多ノ誤謬ヲ發見セルナレハ熟閱セハ尙ホ幾多ノ誤謬ヲ發見スルモ知ル可ラス幸ニ本院ニハ洋學ニ達セル議官ノ在ル有レハ本會ノ終リニ於テ全部付託修正委員ヲ設クルヲ可トス聊カ大體ヲ賛成シ併セテ修正委員ヲ設クル三番ノ建議ヲ賛成ス

○九番三浦安

十八番ト同感ナルヲ以テ三番ノ建議ヲ賛成ス但シ本案ハ譯文ニ係リ原文ノ意義ニ修正ヲ加フ可キニ非ス原文ト意義ヲ同

一ナラシムルヲ要スルヲ以テ全部付託調査委員ヲ設クルヲ至當ナ
リトス

○十四番 大鳥圭介

三番ハ本案ノ翻譯ヲ校正セント要スルヲ説ケリ本官
モ至當ノ説ナリトハ信スレトモ是レ譯文ニ係レハ意義ニ修正ヲ及
ホス可キニ非ス然レトモ本案ハ日本人民ニハ其關係少ナキニ似タ
ルモ外務省及ヒ電信局等ニハ其關係多カル可ク且若シ誤譯セハ外
國ニ對シテモ失體ナレハ三番ノ建議ノ如クスルヲ可トス本官ハ本
案ノ文明ニ關セサレトモ聊カ内閣委員ニ質問セン本官ハ嘗テ工部
省ニ奉職セシモ電信ノ事ニ通セス他ノ議官ニモ或ハ萬國聯合海底
電信線ノ組織ヲ熟知セサル可キモ苟クモ本院ニ於テ本案ヲ議定ス
ル以上ハ徒ヲニ議場ヲ通過セシム可キニ非ス元來本案ハ實際上本

邦ニハ關係少ナカル可ク日本近海ノ海底電信ハ丁抹電信會社ト約
定シテ架設セル者ニシテ即チ上海ト日本トノ線路ノ如キハ丁抹電
信會社ト約定シ清國ニ照會シテ架設シタルナリ日本ニ於テ直接ニ
外國ニ關係セル電線ハ肥前國呼子灣ヨリ朝鮮國釜山浦ニ架設セル
一線ノミニシテ他ハ悉ク内國ノ架設セル所ニシテ外國ニ關係スル
無カル可シ英米兩國間ノ電線ハ如何ナル關係ヲ有スルヤ丁抹電信
會社ノ外ニモ他國ト約定シテ架設セル電線ノ在ル有リヤ又追加條
約ニ據ルニ加那太テール、ヌーブ喜望峯那多兒等ヲ限外ニ置ケトモ
本官ハ加那太喜望峯等ハ米國ヨリスル電線ヲ傳フルニ在リト思惟
ス如何ン又日本ノ如キ此條約ニ加入セハ何等ノ利益ヲ見ル可キ乎
蓋シ利益ノ有無ニ關セス交際上ヨリ加入セル如キニハ非サル可シ

請フ簡單ニ此疑點ヲ説明センコトヲ

○外番二番 黒田 網彦

十四番ノ質問ニ答ヘン此質問ノ點ニ關シテハ本員其答辨ニ難ニスル有ルモ本員ノ答辨スルヲ得ル限リハ之ヲ陳述セン此條約タル歐洲ニ在テハ既ニ早ク經畫ヲ立タルモ我國ニ加入ヲ牒告セシハ昨年ニシテ其後外務卿ヨリ内閣ニ上申シ加入ス可シトノ指令ヲ得テ蜂須賀公使ニ委任シタルモ委任狀ノ彼地ニ到達スル頗ル遅延シ爲メニ約定ノ期ニ後レタルヲ以テ條約第十四條ニ從ヒ之ニ加入シタルナリ然リ而シテ此條約ニ加入セシハ海洋ハ各國ノ共有ニ係ルヲ以テ何レノ處所ニ於テ電線ヲ切斷損壞セララルモ奈何トモスル能ハス唯其違犯船ノ所屬國ノ裁判ニ任セ此條約ヲ以テ電線ヲ保護スルノ點ニ在リトス丁抹電信會社ノ一事ハ別ニ説明ヲ要

セサル可シ加那太テール、ヌーブ喜望峯那多兒等ヲ除キタルハ本官モ其理由ヲ詳知セス主務官ノ説ク所ヲ聞クニ加那太喜望峯維太利等ハ幾ント半屬國トモ稱ス可キ者ナレハ英皇ノ批准ヲ經テ加入ヲ請フコト有ル可シトシテ然セルナリト思惟スト云ヘリ併セテ正誤ス第十條二項中ノ「非ラサル」ト言ヘル「ラ」ハ衍字ナリ各位之ヲ領セヨ

出席

五十三番

黒田

清綱

○三十七番

神田 孝平

本官ハ本案ニ對シテ異見ヲ有セス然ルニ三番ハ譯文ノ妥當ナラサルコトヲ指摘シ校正ヲ加フル爲メニ委員ヲ設ケンコトヲ建議セルモ本官ハ其要用ナラサルヲ認定ス原來本案ハ通常ノ議定案ト異ニシテ布告文即チ「明治十七年四月佛蘭西國巴里府

ニ於テ別冊萬國海底電信線保護聯合條約ニ加入スト言ヘル三十餘字ヲ議定ニ付スルニ在リテ條約文ハ參照ノ爲メニ下付セシニ過キサレハ加入ノ可否ヲ議定スルノミ他ニ議及ス可キニ非ス已ニ布告文ノ外ニ議及ス可ラサル以上ハ條約文ノ譯字等ハ主務者ニ於テ之ヲ校正シテ可ナリ又布告セシ後ニ支障ヲ見ハ政府ハ何時ニテモ改正スルニ妨ケス然レトモ若シ譯文中ニ數所ノ明瞭ヲ缺ク有リテ直チニ原案ヲ把テ發布スルヲ不可ナリト爲サハ宜ク校正ヲ要スル理由ヲ上奏文中ニ附記シテ之ヲ申白スヘキナリ適マ同列中ニ三番ノ如キ佛蘭西學者ヲ得タルハ本院ノ幸福ナレトモ譯文ヲ校正スル爲メニ特ニ委員ヲ置クニハ同意スル能ハサルナリ

○五十四番 村田保

本官モ三十七番ト意見ヲ同ウス若シ委員ヲ置キ報

告案ノ出ルヲ俟テ之ヲ議スルトセハ一一其修正ノ可否ヲ起立ニ問ハサルヲ得ス豈其レ斯ノ如キノ理アラシヤ

○十八番 柴原和

本會ノ初メニ當リ議長ハ條數頗ル多キヲ以テ朗讀ハ

布告案ニ止ムト宣告セリ故ニ第二讀會ニハ逐條議ニ付ス可キヲ信ス三十七番ハ再校ス可キ理由ヲ上奏文中ニ附記ス可シト云フモ本官ハ全案ヲ議定ニ付セル者ト認ムルヲ以テ審議修正スル權アルヲ信ス若シ原案ヲ把テ布告セシ後ニ此條約書ノ原文ノ人民ノ手中ニ落ル有ラハ新聞記者輩ハ其誤謬ヲ指摘シテ新聞紙上ニ掲載スルモ知ル可ラス幸ニ三番ノ誤謬ヲ發見セル以上ハ委員ヲ置キテ校正セシコトヲ望ム若シ委員ヲ置カサルニ決セハ第二讀會ニ至リ三番ノ修正説ノ出ルヲ待テ之ヲ賛成セントス

○三十七番 神田孝平

尙ホ一辨セン誤譯ニ拘ラス原案ヲ以テ上奏セハ政府之ヲ疑ハントナラハ議長ノ意見ヲ以テ本院職員中ノ佛蘭西學者ヲ擇ヒ之ヲ調査セシメテ内閣ニ上申スルモ可ナリ決シテ此議場ニ議ス可キニ非ス誤謬ヲ留ムルノ不可ナルハ言ヲ待タサレトモ本院其責ニ任スル無シ唯單ニ此條約ニ加入スル可否ヲ議センノミ然ルニ既ニ加入シタル以上ハ是レ復タ奈何トモスル能ハス故ニ校正ノ如キハ主務者ノ爲ス所ニ委カスヲ當然ナリトス本院ニ於テ委員ヲ置キ以テ校正ヲ加フ可キニ非サルナリ

○議長 三番ニ告ク三番ノ發議ハ修正委員ヲ置クニ在ルモ九番等ハ調査委員ヲ設クルヲ至當ナリト云ヘリ如何ン

○三番 箕作麟祥

九番ノ說ノ如ク調査委員ヲ置クヲ至當ナリト信ス依テ

建議ヲ訂タス

○十八番 柴原和

本官ハ過刻三番ノ修正委員ヲ置ントスル建議ニ賛成セシカ今其建議ヲ訂セルニ因リ再ヒ之ヲ賛成シ併セテ第四百七十

五號議案ヲモ調査委員ニ付託センコトヲ望ム三十七番ハ翻譯ノ誤謬ハ本院其責ニ任セス若シ之ヲ不妥ナリトセハ議長ヨリ本院中ノ

職員ニ命シテ調査セシムルモ可ナリト云ヘリ然レトモ此事タル調査課等ニ委ス可キニ非ス調査課ハ上局及ヒ議官ノ參考ニ供スル爲メニ議案ノ調査ヲ爲ス者ナレハ調査課ニ調査セシメ以テ上奏ス可シト云フハ事物ノ輕重ヲ辨セサル謬論ト謂フ可シ又某議官ハ報告案ヲ議スルニ一一其修正ノ可否ヲ起立ニ問ハサルヲ得ス豈其レ斯ノ如キノ理アラシヤト云フモ議官タル者ハ何様ノ場合ニ於テモ可

否ノ決ニ與カラサルヲ得サルノ規則ナレハ本官等ハ原案ト修正説トヲ問ハス其可ナリト思惟スル者ニ起立セントス現ニ同一ノ意議ナル可キニ條約第一條ニハ「屬地」ト言ヘルニ追加條約ニハ「屬國」ト言ヘル如キハ本官輩ノ洋文ヲ解セサル者ト雖モ其可否ヲ決スルヲ得ヘケレハナリ

○三番^{箕作麟祥} 十八番ハ第四百七十五號議案ヲ併セテ調査委員ニ付託ス可シト云フモ本官ハ斯ノ如キ意思ヲ有セス第四百七十四號議案ハ譯文ニ係レトモ第四百七十五號議案ハ譯文ニ非ス聯合條約ニ關シ設クル罰則ニシテ普通ノ議定案ナレハ少ク修正ヲ要スル有レトモ調査委員等ヲ設ル必要ヲ見ス本官カ調査訂正センコトヲ望ムハ現ニ開會セル第四百七十四號議案ノ譯文ニ關スルノミ

○三十七番^{神田孝平} 尙ホ一言セン某議官ハ本官ノ譯文ニ容喙ス可ラスト云ヒシ如ク聴取セルモ本官ノ意思ハ然ラス只其譯文ノ當否ヲ本院ノ議場ニ論ス可キ責任ヲ有セスト云ヒシノミ十八番ハ譯文ト雖モ可否ヲ決スル能ハサル無シト云フモ何ヲ標準ト爲シテ其可否ヲ決セントスルヤ本官ハ斷然ニ譯文ノ可否ヲ決スル能ハスト信ヌ抑モ譯文ハ假令其文章ハ拙劣ナルモ其意味ハ濛漠ナルモ善ク原文ト吻合スルヲ要スルナレハ起立ノ多寡ヲ以テ其可否ヲ決定スル能ハサルハ辨ヲ待タスシテ知ル可キナリ

○九番^{三浦安} 本官ハ調査委員ヲ置クニ左袒セシカ三十七番ノ言モ大ニ理ニ合フヲ覺フ實ニ三十七番ノ云フ如ク譯文ノ當否ヲ議場ニ決ス可キニ非ス本官カ調査委員ヲ置クヲ至當ナリトセシモ其精神ハ

三十七番五十四番ト同感ニシテ原文ヲ知ラサレハ譯文ノ可否ヲ知ルヲ得サルニ由ルナリ十八番ハ議官タル者ハ可否ノ決ニ入ラサルヲ得スト云フモ此例規タル譯文ニ及ホス可キニ非ス三番及ヒ番外ニ番ノ如キ佛蘭西學者ノ協議シテ文字用例等ヲ修正スルヲ要スルノミ何ソ見ニ誤譯ヲ發見セルニ之ヲ修正セス漫ニ原案ヲ把テ上奏スルヲ得ンヤ故ニ調査委員ヲ設ケハ委員ハ別紙ニ報告文ヲ草シテ之ヲ報告シ議場ニ於テ其報告文ヲ議ス可キヤ否ヤヲ決シ而シテ報告文ヲ副シテ上奏スルヲ妥當ナリト信ス斯ノ如クセハ三十七番ノ意見ヲモ貫キ本院ノ體面ヲモ失セサルヲ得ン本院ノ體面及ヒ議官ノ職任トシテ譯文ノ調査ヲ爲ス如キハ屑シトセサルモ願クハ本案ヲ調査委員ニ付託スルニ決センコトヲ若シ夫レ其譯文ヲ議場ニ議

ス可ラスト爲スハ本官モ三十七番五十四番等ト同感ナリトス

○議長 他ニ發議ナクハ三番ノ建議ノ決ヲ取ン其建議ニ同意スル者ハ起立セヨ

起立者十八人

○議長 少數ナルニ因リ調査委員ヲ置ク建議ハ消滅ス

○議長 他ニ發議ナキヲ以テ第四百七十四號議案ノ第一讀會ヲ畢リ第四百七十五號議案ノ第一讀會ニ移ラン第四百七十五號議案第一讀會ノ議事筆記ハ別冊ニ具ス

明治十八年六月十八日内閣書記官ヨリ本案ノ正誤書ヲ送付セリ

因テ左ニ附記ス

件名及布告案中

「萬國海底電信線保護聯合條約」トアルハ「海底電信線保護萬國聯合條約」ノ誤

條約書中件名

「萬國海底電信線保護條約譯文」トアルハ「海底電信線保護萬國聯合條約譯文」ノ誤

同第二條末項中

「適用」トアルハ「適施」ノ誤

同第四條中

「一ノ海底電信線ヲ所有シタル者」トアルハ「一ノ海底電信線ノ所有者」ノ誤

同第七條中

「其損失ノ後」ノ下ニ「直チニ」ノ三字ヲ脱ス

「速ニ」ノ二字ハ衍

同第八條初項中

「ヲ以テ相當ノモノ」ノ八字ハ衍

同第十條二項中

「非」ノ下「ヲ」ノ字ハ衍

「船主」トアルハ「船頭」ノ誤

「又其司令官」トアル「又」ノ字ハ衍

同第十一條中

「許ス所ノ略式ヲ以テ」トアルハ「觸レサルタケ成ルヘク簡略ニ」ノ誤

同第十五條中

「開ハ「交」ノ誤

同第十六條末項中

「政府「トアルハ「國」ノ誤

同第十七條中

「交換スヘシ尤モ「トアルハ「交換シ」ノ誤

追加條約中

「屬國「トアルハ總テ「屬地」ノ誤

「公使「トアルハ總テ「使臣」ノ誤

「該國「トアルハ「該地」ノ誤

元老院會議筆記明治十八年六月二十二日

○第四百七十四號議案 佛蘭西國巴里府ニ於テ海底電信第二及第線保護萬國聯合條約ニ加入ノ儀

三讀會

議長 東久世通禧

出席議員

二番 小畑 美稻

三番 箕作 麟祥

五番 青山 貞

八番 西 周

九番 三浦 安

十番 福原 實

十一番 長松 幹

十二番 鷺尾 隆聚

十三番 西村 貞陽

十四番 大鳥 圭介

十五番 長岡 護美

十七番 林 友幸

十八番 柴原 和

十九番 籠手田 安定

二十番 海江田 信義

二十二番 稅所 篤

二十四番 楫取 素彦

二十五番 何 禮之

二十六番 鍋島 幹

二十七番 壬生 基修

二十八番 神山 郡廉

二十九番 大給 恒

三十番 安藤 則命

三十一番 上杉 茂憲

三十二番 宮本 小一

三十五番 細川潤次郎

三十六番 榎村 正直

三十七番 神田 孝平

- 三十八番 岩村 定高
- 三十九番 大久保一翁
- 四十一番 町田 久成
- 四十三番 伊集院兼寛
- 四十四番 由利 公正
- 四十五番 河田 景與
- 四十六番 田邊 太一
- 五十一番 津田 眞道
- 五十二番 野村 素介
- 五十三番 黒田 清綱
- 五十四番 村田 保

内閣委員 番外二番 參事院議官補 黒田 綱彦

午前第九時五十分開場

○議長 本日ハ第四百七十四號議案ノ第二讀會ヲ開ク本會ヲ終ラハ
更ニ第四百七十五號議案ノ第二讀會ニ移ラン書記官朗讀ノ後チ例
ニ遵ヒ發議セヨ

書記官 森山 茂 朗讀
布告案

明治十七年四月佛蘭西國巴里府ニ於テ別冊海底電信線保護萬國聯
合條約ニ加入ス

右奉 勅旨布告候事

○十八番柴原和 本案ハ第一讀會ニモ各位ノ論セシ如ク專ラ聯合條約ニ加入スル可否如何ヲ議ス可キ者トス然リ而シテ敢テ之ヲ否トスル理由無キヲ以テ本官ハ異議ヲ容レス賛成セリ三番ハ翻譯ノ明備ナラサルヲ説キ且其誤譯ヲ證シ終ニ調査委員ヲ置ク建議ヲ提出セリ之ニ反シテ某議官ハ譯文ノ可否ヲ議スルハ本院ノ責任ニ屬セス故ニ修正委員ヲ置クヲ要セスト辨シ三番ノ建議ハ爲メニ消滅セリ本官ハ竊ニ譯文ノ適當ナラサルハ姑ク措クモ可ナレトモ原文ニ反對スル意義ノ文字ヲ填用シテ之ヲ天下ニ布告スルノ不可ナルヲ憾メリ爾後內閣ヨリ交付セル正誤文ヲ觀ルニ一ニ三番議官ノ第一讀會ニ指摘セル所ニ符合ス前會ニ於テ某議官ハ假令內閣ヨリ原文ヲ

送付スルモ之ヲ讀ム能ハサル者ハ其是非ヲ論スルヲ得スト云ヘリ是レ實ニ本官ノ心ヲ得タル者トス然ルニ今ヤ三番議官ノ指摘ニ徴シテ譯文ノ正誤ヲ見ル以上ハ其既ニ完全ナルヲ信ス是ヲ以テ更ニ譯文ノ適不適ヲ論スルヲ止メ直ニ第三讀會ヲ開カンコトヲ望ム若シ夫レ第四百七十五號議案ハ罰則ニ係ルヲ以テ多少ノ議論ノ出ツ可キモ本案ハ前述ノ如クセンコトヲ建議ス

○三番箕作麟祥

本案ハ各國委員ノ巴里府ニ集會シテ之ヲ議決シ而シテ本邦モ其條約ニ加入セシナリ各國ノ交際日ニ月ニ親密ニ進メル今日ナレハ各位モ必ス本案ヲ賛成スルヲ信ス本官ハ主務省ヨリ原文ヲ借り以テ譯文ト對照セシニ殆ント誤謬ト云フモ誣ヒサル可キ事實二三點ヲ發見セリ是故ニ第一讀會ニ調査委員ヲ置ク建議ヲ提出

セシニ譯文ノ適不適ヲ議スルハ本院ノ職權ニ非ストスル反對論ニ制セラレテ其建議ハ終ニ消滅セリ爾來熟考スルニ原案ヲ以テ布告スルヤ人民ノ佛蘭西文ヲ解スル有ルモ邦文ノ布告ヲ遵奉スルハ當然ナレハ設令其支障ヲ見ルモ奈何トモスル能ハサラントス故ニ三菱會社共同運輸會社等此譯文ノ明備ナラサルヨリ知ラス識ラス萬國條約ニ違背スル無キヲ保セス事若シ此ニ至ラハ條約各國ハ其違背ノ罪責ヲ我カ政府ニ照會セン然ルニ人民ハ和文ノ布告ヲ遵奉スル義務ヲ怠ラサル以上ハ條約各國ノ照會ヲ受ルモ其罪責ヲ人民ニ歸スルヲ得ス此ヲ思ヒ彼ヲ思フニ調査委員ヲ置ク建議ノ行ハレサル以上ハ已ムヲ得ス本官ハ一己ノ資格ヲ以テ或ハ政府ニ建議セント期セリ然ルニ今回内閣ヨリ廻付セル正誤文ハ恰モ本官ノ意見ニ

符合スルノミナラス萬國ノ文字ヲ轉置セル如キモ甚タ可ナリ今ヤ既ニ前陳ノ困難ヲ致ス無キヲ信ス本官ハ實ニ大ニシテハ政府ノ困難ヲ防キ小ニシテハ本官ノ各位ヲ欺罔セサルヲ明セルヲ喜フナリ故ニ十八番ノ建議ヲ賛成ス

○議長 本案ヲ可トスル者ハ起立セヨ
 總員起立

○議長 全會一致ナルヲ以テ本案ニ可決ス條約譯文ハ朗讀ヲ省キ通篇ヲ以テ問題ニ付ス

○議長 本案ヲ可トスル者ハ起立セヨ
 總員起立

○議長 全會一致ナルヲ以テ本案ニ決シ乃チ第二讀會ヲ終ル

○外^番二^番黑^田綱^彦 既ニ本案ノ第二讀會ヲ終了セルヲ以テ第四百七十五號議案ノ第二讀會ニ移ルノ順序ナランモ請フ先ツ本案ヲ完結シ而ル後チ次號ニ移ランコトヲ是レ曾テ電信條例議案ノ會議ニ於テモ陳述セシ如ク急施ヲ要スル法案ナルニ由ルナリ

○議長 十八番ノ建議シ番外二番ノ請求スル如ク引續キ第三讀會ヲ開クニ同意スル者ハ起立セヨ

總員起立

○議長 全會一致ナルヲ以テ直チニ第三讀會ヲ開ク
書記官 森山 朗讀
布告案

明治十七年四月佛蘭西國巴里府ニ於テ別冊海底電信線保護萬國聯

合條約ニ加入ス

右奉 勅旨布告候事

○議長 本案ヲ可トスル者ハ起立セヨ

總員起立

○議長 全會一致ナルヲ以テ本案ニ決シ條約譯文ハ可定ト認メ更ニ決ヲ取ラサル可シ乃チ第三讀會ヲ終リ直チニ第四百七十五號議案ノ第二讀會ニ移ラン 第四百七十五號議案第二讀會ノ議事筆記ハ別冊ニ具ス

元老院會議筆記 明治十八年六月十五日

○第四百七十五號議案 海底電信線保護萬國第一讀會
聯合條約罰則ノ儀

議長 東久世
通禧

出席議員

- | | | |
|-----|----|----|
| 二番 | 小畑 | 美稻 |
| 三番 | 箕作 | 麟祥 |
| 六番 | 津田 | 出 |
| 八番 | 西 | 周 |
| 九番 | 三浦 | 安 |
| 十番 | 福原 | 實 |
| 十一番 | 長松 | 幹 |

十三番	西村 貞陽
十四番	大鳥 圭介
十五番	長岡 護美
十六番	伊丹 重賢
十七番	林 友幸
十八番	柴原 和
十九番	籠手田 安定
二十番	海江田 信義
二十二番	稅所 篤
二十三番	鍋島 直彬
二十四番	楫取 素彦

二十五番	何 禮之
二十六番	鍋島 幹
二十七番	壬生 基修
二十八番	神山 郡廉
二十九番	大給 恒
三十番	安藤 則命
三十一番	上杉 茂憲
三十二番	官本 小一
三十三番	橋口 兼三
三十五番	細川潤次郎
三十六番	榎村 正直

- 三十七番 神田 孝平
- 三十九番 大久保一翁
- 四十番 渡邊 清
- 四十一番 町田 久成
- 四十三番 伊集院兼寛
- 四十四番 由利 公正
- 四十五番 河田 景與
- 四十六番 田邊 太一
- 五十一番 津田 眞道
- 五十三番 黒田 清綱
- 五十四番 村田 保

- 五十五番 久我 通久
- 五十七番 永山 盛輝
- 内閣委員番外 參事院議官 高崎 五六
- 同 番外 參事院議官補 黒田 綱彦

午前第十一時開會

○議長 第四百七十五號議案ノ第一讀會ヲ開ク朗讀ハ布告案ニ止ム

書記官西山 眞平 朗讀

布告案

萬國海底電信線保護聯合條約罰則別冊ノ通制定ス

但施行ノ日ハ追テ布告スヘシ

右奉 勅旨布告候事

左案ハ議場ニ朗讀セサリシモ參觀ニ便スル爲メニ之ヲ附記ス
萬國海底電信線保護條約罰則

第一條 條約二條ヲ犯シタル者ハ刑法第百六十四條ノ例ニ照シテ
處斷ス

其疎虞懈怠ニ因ル者ハ電信條例第五十九條第二項ニ照シテ處斷
ス

第二條 疎虞懈怠ニ因リ海底電信線ヲ切斷損壞シタル者ハ其船舶
ノ初テ到着シタル地ノ管轄廳(外國ニ於テハ其地駐在ノ領事館)
ニ二十四時以内ニ届出ヘシ之ヲ届ケサル者ハ十圓以上百圓以下
ノ罰金ニ處ス

第三條 自己ノ生命或ハ船舶ヲ保護スル爲メ已ムヲ得スシテ海底

電信線ヲ切斷損壞シタル者亦前條ニ據テ届出ヘシ之ヲ届ケサル
者ハ二圓以上十圓以下ノ罰金ニ處ス

第四條 條約第五條第六條ヲ犯シタル者ハ十圓以上百圓以下ノ罰
金ニ處ス

條約第五條第一項ヲ犯シ因テ他ノ船舶ヲシテ海底電信線ヲ切斷
損壞ニ至ラシメタル電信船ノ船長ハ一等ヲ加フ

第五條 條約第十條ニ依リ書類ヲ見ント要スルトキ之ヲ示スコト
ヲ拒ミタル者ハ四圓以上四十圓以下ノ罰金ニ處ス

前項ノ場合ニ於テ暴行脅迫ヲ以テ拒ミタル者ハ刑法第百三十九
條ニ照シテ處斷ス

第六條 此罰則ニ掲ケタル罪ヲ犯シタル者ハ犯人所屬ノ船舶定繫

港又ハ其船舶所在地ノ輕罪裁判所ニ於テ之ヲ審判スヘシ

○番二番黒田綱彦

海底電信線保護萬國聯合條約ヲ布告スル以上ハ其罰則ヲ制定スルヲ要ス因テ本邦ノ刑法ヲ基礎ト爲シ其他ハ過日發布セシ電信條例ト佛國政府ヨリ參考ノ爲メニ我カ政府ニ寄送セル聯合條約ノ罰則トヲ比較シ以テ本案ヲ立草セシナリ

○五十四番村田保

本案ハ内閣委員ノ説明セシ如ク我カ刑法ト我カ電信條例ト佛國ノ聯合條約罰則トニ據リテ立草セルナル可キモ專ラ佛國ノ聯合條約罰則ニ據レル者ノ如シ他ノ各國ノ聯合條約罰則モ概子大同小異ナル可シト察スレトモ未タ閱讀スルヲ得サルカ故ニ其如何ヲ知ル能ハス然ルニ本家中ニ不明不備ニ似タル各點ヲ内閣委員ニ質問セン第一條ニ條約第二條ヲ犯シタル者ハ刑法第百六

十四條ノ例ニ照シテ處斷スト言ヘリ然ルニ刑法第百七十條ニハ犯サントシテ未タ遂ケサル者ハ未遂犯罪ノ例ニ照シ處斷スル明文ノ存スレハ條約第二條ヲ犯サントシテ未タ遂ケサル者ニハ刑法ノ未遂犯罪ノ例ニ照シ處斷セサル可ラサルニ其第百六十四條ノミヲ引キテ第百七十條ヲ引カサルハ何ノ故ソ佛國ノ罰則ニモ未遂犯罪云云ノコトヲ言ヘルニ本案ニ之レ無キハ甚タ完全ヲ缺キ刑法ニ對スルモ權衡ヲ得サルカ如シ又第二條ニ疎虞懈怠ニ因リ海底電信線ヲ切斷損壞シタル者ハ云云ト言ヒ而シテ過失ニ因テ切斷損壞シタル者ハ届出可キヲ言ハサルモ本官ノ所見ヲ以テセハ過失ニ出タル者ト雖モ届出ヲ爲サシムルノ可ナルニ似タリ電信條例第五十九條第二項ニ據レハ疎虞懈怠ニ因リ水底電信線ヲ損壞切斷シテ電

十
氣ヲ不通ニ致シ或ハ其効力ヲ妨害シタル者ハ五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處スルト爲シ本案第二條ニハ十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處スルト爲セハ自ラ二罪俱發ノ者タラサルヲ得ス果シテ然ラハ電信條例第五十九條第二項ハ畫餅ニ屬セン又第四條ニ條約第五條第六條ヲ犯シタル者ハ云云ト言ヘリ然ルニ第五條第四項ノ如キハ何人ヲ罰スル者ナルヤ佛國ノ罰則ニハ此事ヲ言ハサルナリ到底本案ハ明備ヲ缺ケルヲ以テ併セテ建議ス本案ハ例ニ從ヒ全部付託調査委員ヲ設ケ十分ニ調査シテ修正ヲ加ヘンコトヲ

退席

二十五番

何

禮之

○外二番 網彦 黒田 五十四番ハ一時ニ數點ノ質問ヲ爲セルモ逐次ニ答辨ヲ爲ス材料ヲ調査セサルヲ得サルヲ以テ答辨或ハ充分ナラサル可

キモ聊カ立案ノ精神ニ據テ陳述セン假令未遂犯ナルモ海上ニ於テスル行爲ナレハ容易ニ之ヲ知ルヲ得サレハ不要用ナリトシテ之ヲ省キタリ若シ五十四番ニシテ要用ナリトセハ修正ヲ加ヘテ可ナラシ疎虞懈怠ト過失トノ區別ハ本員ノ辨明ス可キ限りニ在ラス佛國ノ罰則ニハ「自己」ノ意中ヨリ致シタル怠リ或ハ罰ス可キ怠リト言フモ過失ノ文字ヲ明記セルヲ見ス刑法ニハ疎虞懈怠ト過失トヲ區別セルモ佛國ノ條文ニハ之ヲ區別セル無シ若シ五十四番ニシテ過失ノ文字ヲ佛國ノ罰則ニ明掲セルニ本案ニ脱漏セリト云フナラハ本員ハ其旨ヲ内閣ニ復命セントス但シ二十六國ノ全權委員カ何ノ故ニ過失ノ文字ヲ加ヘサリシヤハ本員ノ與リ知ル所ニ非ス五十四番ノ質問ニ對スル答辨ハ斯ノ如シ此他ニモ質問ヲ爲セシヤ否ヤ若

シ答辨ヲ漏サハ再陳ヲ煩サン

○五十四番村田保 本官ノ質問セル旨意ハ内閣委員ニ通セサルニ似タ

リ本官ノ質問ノ第一點ハ疎虞懈怠ニ非スシテ全然タル過失ニ因リ
海底電信線ヲ切斷損壞セシ者ハ届出ヲ爲サスシテ可ナルヤ刑法第
三百七十七條ニハ疎虞懈怠ノ罰ノ外ニ過失ノ罰ヲ設ク然ルニ本案
ニハ過失ノコトヲ言フ無キヲ以テ之ヲ觀レハ過失ニ因テ海底電信
線ヲ切斷損害セシ者ハ届出ヲ爲サスシテ可ナリヤヲ問フナリ又其
第二點ハ第四條ニ條約第五條云云ノ明文ヲ掲クルモ條約第五條ノ
第四項ト第五項トハ罰ス可キ者ニ非サルニ似タリ佛國ニ於テモ之
ヲ罰セサルニ本案ニハ之ヲモ罰スル如ク立艸セルハ穩妥ヲ缺ケル
如キニ非サルヤヲ問フナリ

○番二番黒田綱彦 質問ノ旨意ヲ領ス届出ヲ爲サシムルモ其惡意ニ出タ

ルニ非スシテ偶然ニ思慮ノ及ハサルヨリ生シタルハ罰セサレトモ
處罰ヲ怕レテ届出ヲ爲ササル弊ヲ防カン爲メニ届出ヲ爲ササル者
ハ罰ス可シト定メタリ又第五條第四項ノコトハ敢テ裁制力ヲ付シ
タルニ非ス第幾項第幾項ト列書スレハ煩雜ニ涉ルヲ以テ單ニ第四
條ト掲ケシナリ

○五十四番村田保 第二條ノ過失ハ届出ヲ爲サシムル云云ノ説明ハ之

ヲ領會スルモ第三條ノ自己ノ生命或ハ船舶ヲ保護スル爲メニ已ム
ヲ得スシテ海底電信線ヲ切斷損壞セシ者モ第二條ニ依テ届出ヲ爲
ササレハ二圓以上十圓以下ノ罰金ニ處セラレハ則チ前後撞着
スルニ似タリ

○三番其作麟祥 内閣委員ニ問フ第四條ニ「條約第五條第一項ヲ犯シ因テ他ノ船舶ヲシテ海底電信線ヲ切斷損壞ニ至ラシメタル電信船ノ船長ハ一等ヲ加フ」ト言ヒ條約第五條第一項ニハ「海底電信線ノ布設又ハ修繕ニ從事スル船舶ハ他ノ船舶トノ衝突ヲ豫防スル爲メ云云」ト言フ是レ相ヒ照應セサル如クナルハ何ソヤ

○番二番黒田綱彦 三番ニ答ヘン本案第四條ト條約第五條ト矛盾スルニ似タルモ罰則第四條第二項ノ精神ハ信號規則ヲ守ラスシテ信號船ト衝突シ因テ他ノ船舶ヲシテ海底電信線ヲ切斷損壞スルニ至ラシメタル電信船ノ船長ヲ處罰スルニ在ルナリ

○議長 五十四番ニ問フ修正委員ヲ設ケント欲スルカ

○五十四番村田保 調査委員ヲ置ク建議ヲ爲セシナリ

○議長 五十四番ノ建議セル如ク全部付託調査委員ヲ置クニ同意スル者ハ起立セヨ

起立者二人

○議長 少數ナルヲ以テ五十四番ノ建議ハ消滅ス他ニ發議ナキヲ以テ此ニ第一讀會ヲ畢ル第二讀會ノ期日ハ更ニ報告セン散會セヨ
午前第十一時三十五分閉場

明治十八年六月十八日内閣書記官ヨリ本案ノ正誤書ヲ送付セリ
因テ左ニ附記ス

「萬國海底電信線保護聯合條約罰則」トアルハ「海底電信線保護萬國聯合條約罰則」ノ誤

元老院會議筆記 明治十八年六月二十二日

○第四百七十五號議案 海底電信線保護萬國聯合條約罰則ノ儀 第二讀會

議長 東久世通禧

出席議員

- | | | |
|-----|----|----|
| 二番 | 小畑 | 美稻 |
| 三番 | 箕作 | 麟祥 |
| 五番 | 青山 | 貞 |
| 八番 | 西 | 周 |
| 九番 | 三浦 | 安 |
| 十番 | 福原 | 實 |
| 十一番 | 長松 | 幹 |

十二番 鷺尾 隆聚

十三番 西村 貞陽

十四番 大鳥 圭介

十五番 長岡 護美

十七番 林 友幸

十八番 柴原 和

十九番 籠手田 安定

二十番 海江田 信義

二十二番 稅所 篤

二十四番 楫取 素彦

二十五番 何 禮之

二十六番 鍋島 幹

二十七番 壬生 基修

二十八番 神山 郡廉

二十九番 大給 恒

三十番 安藤 則命

三十一番 上杉 茂憲

三十二番 宮本 小一

三十五番 細川潤次郎

三十六番 榎村 正直

三十七番 神田 孝平

三十八番 岩村 定高

- 三十九番 大久保一翁
- 四十一番 町田 久成
- 四十三番 伊集院兼寛
- 四十四番 由利 公正
- 四十五番 河田 景與
- 四十六番 田邊 太一
- 五十一番 津田 眞道
- 五十二番 野村 素介
- 五十三番 黒田 清綱
- 五十四番 村田 保
- 五十五番 久我 通久

五十七番 永山 盛輝

内閣委員番外二番 参事院議官補黒田 綱彦

午前第十時十五分開場

○議長 第四百七十五號議案ノ第二讀會ヲ開ク

書記官森山茂 朗讀

布告案

海底電信線保護萬國聯合條約罰則別冊ノ通制定ス

但施行ノ日ハ追テ布告スヘシ

右奉 勅旨布告候事

○議長 本案ヲ可トスル者ハ起立セヨ

總員起立

○議長、全會一致ナルヲ以テ本案ニ決ス

書記官 森山茂 朗讀

海底電信線保護萬國聯合條約罰則

第一條 條約第二條ヲ犯シタル者ハ刑法第六十四條ノ例ニ照シ

テ處斷ス

其疎虞懈怠ニ因ル者ハ電信條例第五十九條第二項ニ照シテ處斷ス

○五十四番 村田保 前會ニ於テ本條ニ未遂犯罪即チ電信線ヲ切斷セン

トシテ未タ之ヲ遂ケサル者ニ加罰スル明文無キ理由ヲ內閣委員ニ質問セリ思フニ刑法第七十條ニハ未遂犯ノ罰例ヲ設ケ佛國ノ罰則ニモ亦之レ有リ然ルニ內閣委員ハ本案ニ之ヲ掲ケサルハ假令未

遂犯ナルモ海上ニ於テスル行爲ナレハ覺知スルニ難シ故ニ寧ロ闕如ニ付スト答辨セリ抑モ佛國ハ條約ヲ締結セル本地ニシテ例ヲ各國ニ示ス者ナリ然レハ則チ英獨諸國ノ罰則ハ未タ之ヲ見ルヲ得サルモ我邦ハ佛國ニ倣フモ何ノ不可ナル有ラン按スルニ英獨諸國モ亦必ス佛國ノ成例ニ依ルヤ知ル可ク且各國共ニ巡邏船ヲ派遣シテ其保護ニ怠ラサル可シ我邦亦何ソ之ヲ爲ササルヲ得ン若シ之ヲ爲サスシテ我邦ノ犯人ガ外國ノ巡邏船ニ捕拿セラルル有ラハ國家ノ名譽ニ關係セントス要スルニ本案ハ各國交際上ニ成ル者ナレハ佛國ノ成例ニ倣ヒ未遂犯罪ノ處分ヲ掲ケンコトヲ望ム故ニ「刑法第百十四條」ノ下ニ「第七十條」ノ五字ヲ添加セン

○三十五番 細川潤次郎 賛成